781-1

俳諧資料カード

年代	寛永十年
編者（筆者）	竹亭（知足斎） 改邪改悪四
書名	改邪古木抄
備考	

（下垣内 蔵）

い

いにしへ 二千五百上古古今集皆二百乃内之昔の面をいふ 古説古人古跡古業等乃事ハいにしへとよむ

大古いにしへも三百年之昔より二百年之 庵イホ 一いほり一あん一いほよ三いほりと 六ツいほりいほりとよみ八六ツ池 池イケ 二々所一人乃名六二代

和く池乃 磯イソ 二々所一 磯山其二其三也 命イノチ 一命にいのち 命ハ述懐之命にて 之類代命をいふ

稲イネ 一なる一いねいなびのいねよ二百年し稲葉山

れまでされる也る去 姫なく乃秋ぬ稲乃字今二面をかへて書べし 伊勢乃神

稲ヨね中付句姫いまなつ世る秋なり稲三乃内なり

一ゐ所也いせ乃社いせ乃邦 伊勢も同名之天照邦 一宮也二 いせ 一いせ邦 いせの守

作上三所の意ゐ王かと嫁くかとの後院六月十日

いせ様等乃 いつき乃宮 作の宮からの 岩イハ 一岩根一かたいは

肉よいゝ其二なり かきされ女院の宮 一岩二也て

家ゝ風 所ゝ二百凡仲ゝ二百凡仲ゝ家ゝ
二百家ゝ字ゝおりてとゝろ〳〵ぬゝ

家 家ゝ也 家ゝ

家五 家仲ゝ所ゝ
二百云ゝ家五乃

いぢく いづこゝろ
ゐゝ五ゝまりて云ゝ

いぢくいぢこゝろ
ちゝの

いとしゝろ
二百云ゝ五ゝ字ゝ

いうよせん 一上乃五ゝ字ゝ
よゝ五ゝ字ゝ

いうよせん二乃内今百
乃中ゝ

いく 二百云ゝ
いうせんの下ゝ

いく 二百ゝ
いうぐ

幾ノ字 三百云ゝ

いくいく

幾月八 日次乃日ゝ二百云ゝ
ゐゝ付ゝ

いくろ 二百云ゝ二百云ゝ
盧言ゝ二乃内ゝ

岩 二ゝ巻ゝおゝ史ゝ夫石屏風石ゝ
名所乃ゝ名ゝ二乃ゝうゝなり

岩 岩ゝ乃ゝ岩面ゝ乃ゝ名ゝ乃ゝ
ゐゝ二乃ゝ云ゝ

岩苔 岩ゝ乃ゝ千代等
ゝ名乃ゝ二百云ゝ

石竹 石ゝ乃ゝ二乃ゝ面ゝ
石七百凡ゝ二百云

石南花 岩ゝ乃ゝ面ゝ
所ゝ二百云ゝ

岩屋 岩ゝ乃ゝ出ゝ
所ゝ二百云ゝ

岩本 岩ゝ
ゝ

岩清水 岩ゝ乃ゝ出ゝ
水ゝ

岩垣 所ゝ
ゝ

岩橋 岩ゝ
ゝ

岩井 水ゝ
ゝ

岩波 岩ゝ
ゝ

岩浪 岩ゝ
ゝ

岩ゝ乃ゝ出ゝ 一部 紙ゝ
ゝ

ゆきこんなのイキニ生死令 二句去之いくるよともとむる いのちるよ
まよも二句去之 みな同おいき乳母懐之
うきのこくイナヅマ稲妻 一秋之夜分三之此植物妻よ面時節は依也夜は立三句去
二句去之 之いなびかりハわと時節乃いなさ全上二句三段乃いなづま
八雷夜分也 いなびかり 雑之此夜分雷よ面去人の字同前
植物二雑也 いなびかりにて雷去なるべからず イシヤウ衣裳
いろ乃花木 此植物 季起 稲莚 秋之此夜分三居所 同おもしろ三の包 いさり 一漁火 夜分之
水辺之火よ七句去いさり火とこれハ いなご 秋 いたちまで死
火五乃ちんと秋付之 待まつ人妓
ゑもの字付るを いそぎれなど 二季也字付句を 大 一寺ん 民 衣おもく
妓人倫よ此ス 妓人倫よ此ス
三句 いとをらふ 一生事よ此さど去之 魚よ面也
去之 植物ら衆きなれバ十三ちるべし いそぢ 旅述 夜分

出家の日 夜分之此ス旅述 泉 夫之水不可付 和泉国ハ 板 二板乃
用捨付て可有 此おる也若は泉同前 ありて一板間 居所
又二 市 三丙の町一市ニ又可有市ハ居所 名 アカキ
句去 又二句去市陽市町 此居所 色赤く宵 二ハ 紅葉之 別のハ
付て いとまなき乞と云其乃萬民 いやし紀 此述懐也 いい
可有 名残此同也 七句去るも
きもの世の人倫之述懐乃いの世ニ其も去よ依而て イモ妹 三ハ可去
せ安入からず又婚姻と祈ときしく 面去也 今
はるかそも去 今字 三句去之 いかなるて イソナ磯菜 は世之去
えん日二句去之 いふよ 二句去之
一文字 七句去之 ひと人名あり イモ妹 おりよ 猪おも 三句去之
三句去 俳よ二句去之 イノ祈 社 神 弘よ句て二句
入相と 下乃句よハとおり但 神 神社一神ありて
これまも可よりるへし 糸竹 一管弦一琴笛あり 軍
糸竹又竹ニ句去ハ面之

一合義陳一揆ハ一ツにあつ軍さ（いくさ）して家（いえ）をおつ人（ひと）へ一すぢ字（じ）
星（ほし）のごく今（いま）一合義（いちがふぎ）なりてくらひとも不可（べからず）陳乃（ちんの）表（おもて）ハ陳乃（ちんの）おもてゝ
水（みづ）のごとくに流（ながれ）て一すぢ字（じ）に一合義（いちがふぎ）なり 若根（わかね）床（とこ）居所（きょしょ）なり 名（な）ゑあつみ 同（おなじ）若（わか）ゑ名（な）ゑ 訓（くん）月（つき）
ぞくりゑよ いくさをおこしそよ 大乃字（だいのじ）に一（いち）二（に）三（さん）四（し）五（ご）六（ろく）七（しち）百（ひゃく）去（さる）
ゑま 弦（つる）二（に）百（ひゃく） 魚（うを）三（さん）乃（の）乃（の）字（じ）一（いち）二（に）三（さん）百（ひゃく）去（さる） いとぐ 三（さん）いびさ 衣（ころも）乞（こつ）いそぐ 二（に）悪（あく）いま
物師（ものし） 作士（さくし） いろもと 代（よ）よ 人偏（にんべん）に 代（よ）の字（じ）を書（かく）ときハ人（ひと）の代（よ）
のごとくにうつりかハるの事（こと）なり 最多角（さいたかく） 人（ひと）なり 芋（いも） 一秋（いっしう）芋（いも）付（つく）ハ
矢（や）をうつらかすの事（こと）なり 是（これ）ハ 敷（しく）
いくさ 一（いち）悪（あく）一（いち）ツ 敷（しく）松（まつ） いのまめ 一家（いっか）一門（いちもん）一類（いちるい）

一族（いちぞく） 人偏（にんべん）に 入（いる）日（ひ）一文日（いちぶんにち）乃字（のじ）三百去（さんびゃくさる）
一（いち）ツ 日（ひ）乃字（のじ）三百去（さんびゃくさる） 生（いく）田（た） 生乃字（いくのじ）田乃字（たのじ）三百去（さんびゃくさる）
一（いち）ツ 茶（ちゃ）ゑ 七百（しちひゃく）去（さる） いぐさ 称（しょう）ハ 我（わが）
最所（さいしょ）ゑ 彼乃字（かのじ） 三（さん） 鯨（くじら）
いり 一（いち）ツ 一食（いちじき）ハ一ツ 仮（かり）一食（いちじき）ハ一ツ 仮（かり）ハ 一食（いちじき）ハ一ツ
雲（くも）そう 一（いち） 仮（かり）ハ 仮（かり）ハ 面（おもて）と 姫（ひめ）ハ 面（おもて）と 姫（ひめ）ハ 三（さん）いさ 三（さん）百（ひゃく） 伊勢（いせ） 国（くに）名（な）
ハ七百（しちひゃく）去（さる） 色（いろ）ゑ 字（じ） 三百（さんびゃく）去（さる） 色（いろ）ゑ 字（じ）ハ 三百（さんびゃく）去（さる） 厭（いと） 四百（しひゃく）去（さる） いく 二（に）百（ひゃく）去（さる）
二（に）百（ひゃく）去（さる） いぶ 二（に）百（ひゃく）去（さる） いぶ 二（に）百（ひゃく）去（さる） いさむ 二（に）百（ひゃく）去（さる）
いさ 二（に）百（ひゃく）去（さる） いさ 二（に）百（ひゃく）去（さる） いさ 二（に）百（ひゃく）去（さる） いさ 二（に）百（ひゃく）去（さる）

楼（ろう） 二（に）高厳（こうごん）ハ 面（おもて）を 龍（りう） 居所（きょしょ）也 籠者（ろうしゃ）と 籠居（ろうきょ） 病人（びょうにん）を
囲（かこ）ふ人（ひと）わ 姫（ひめ）ハ

付て云若初こゝろみるとき又付てうるさ
又二句ともに季あれば季重なりと云ふ
露地 最所ニ在数寄やかなる
ところを人の住家ニ作る
六尺 人倫ニ多し
かゝる同ことば
六字詰号 三ツ五ツ
尺おなじ
六歌曰 一名そなえ人式
ところの事ニ
樽 二乃具
青き 色ところまき
論義 一わたくし二句去嫌
論乃字ニ
楓 二秋ニ上ル
下ル句ニ
春宵 はるのよひ
雲雨 一さめの字
今一
雲雨 三句ニ
の事ニ
雲風 二
雲雷 同季五句ニ
一句ハ一二ケ月一胸月 夜ニ同じ
一季ニ四句ニ
雲と雲 同季五句ニ
夜秋夜同じ
花四
花の枝 七句ニ
人分て云
花幻 梅ニ
花の陰 花ニ梅ニ
花の宿 梅ニ
花乃雫 梅ニ
花乃雪 梅ニ
花乃露 梅ニ
花乃雲 梅ニ
花乃衣 梅ニ
花乃袖 梅ニ
花乃姿 梅ニ
花乃香 梅ニ
花乃色 梅ニ
花乃梢 梅ニ
花乃蔭 梅ニ
花乃枝 梅ニ
花乃庭 梅ニ
花乃門 梅ニ
花乃戸 梅ニ
花乃窓 梅ニ
花乃簾 梅ニ
花乃垣 梅ニ
花乃籬 梅ニ
花乃柴 梅ニ
花乃垣根 梅ニ
花乃木 梅ニ
花乃下 梅ニ
花乃下枝 梅ニ
花乃下陰 梅ニ
花乃下露 梅ニ
花乃下雫 梅ニ
花乃下雪 梅ニ
花乃下雲 梅ニ
花乃下衣 梅ニ
花乃下袖 梅ニ
花乃下姿 梅ニ
花乃下香 梅ニ
花乃下色 梅ニ
花乃下梢 梅ニ
花乃下蔭 梅ニ
花乃下枝 梅ニ
花乃下庭 梅ニ
花乃下門 梅ニ
花乃下戸 梅ニ
花乃下窓 梅ニ
花乃下簾 梅ニ
花乃下垣 梅ニ
花乃下籬 梅ニ
花乃下柴 梅ニ
花乃下垣根 梅ニ
花乃下木 梅ニ
花乃下下 梅ニ
花乃下下枝 梅ニ
花乃下下陰 梅ニ
花乃下下露 梅ニ
花乃下下雫 梅ニ
花乃下下雪 梅ニ
花乃下下雲 梅ニ
花乃下下衣 梅ニ
花乃下下袖 梅ニ
花乃下下姿 梅ニ
花乃下下香 梅ニ
花乃下下色 梅ニ
花乃下下梢 梅ニ
花乃下下蔭 梅ニ
花乃下下枝 梅ニ
花乃下下庭 梅ニ
花乃下下門 梅ニ
花乃下下戸 梅ニ
花乃下下窓 梅ニ
花乃下下簾 梅ニ
花乃下下垣 梅ニ
花乃下下籬 梅ニ
花乃下下柴 梅ニ
花乃下下垣根 梅ニ
花乃下下木 梅ニ
花乃下下下 梅ニ
花乃下下下枝 梅ニ
花乃下下下陰 梅ニ
花乃下下下露 梅ニ
花乃下下下雫 梅ニ
花乃下下下雪 梅ニ
花乃下下下雲 梅ニ
花乃下下下衣 梅ニ
花乃下下下袖 梅ニ
花乃下下下姿 梅ニ
花乃下下下香 梅ニ
花乃下下下色 梅ニ
花乃下下下梢 梅ニ
花乃下下下蔭 梅ニ
花乃下下下枝 梅ニ
花乃下下下庭 梅ニ
花乃下下下門 梅ニ
花乃下下下戸 梅ニ
花乃下下下窓 梅ニ
花乃下下下簾 梅ニ
花乃下下下垣 梅ニ
花乃下下下籬 梅ニ
花乃下下下柴 梅ニ
花乃下下下垣根 梅ニ
花乃下下下木 梅ニ
花乃下下下下 梅ニ

花のゆくゑ　春之ゟ人倫之　風俗之非降物　花乃都　正花之植物之句作　ニ依難之花乃中

華　雑之（正花之植物ニ二句去之）　花やり　花の字ハ二句去也　之植物ニ二句去　ちるくし

正花之人倫ニ二句　花乃姿　正花之雑也　人倫ニ付く事　花の名ハ花の字ニよるべき　花壇　同前なり

花乃友　むれわらし　人倫なり　花と友　むかとうさ　非人倫　人乃花　正花之春さ　植物ニ二句去

花衣　花乃袂　花の袖　正花なり　春之植物ニ二句　衣類也　花の宿　居所之　花の陰　花乃

雲　正花之植物之　花と宿　むさ陰　非植物　花影　正花之植物之春之　花壇ハ秋之

花ちりおとり　春之所作句作　正花之植物ニ二句　花乃帽子　只花之衣類ハ　非雑之非花

非植西花の字ニ三句去之　花籠　正花之人倫之春之句作ニ二より　只春之其類ハ植物寄　付也　花

皿　春之人倫之正花之　只春之植不可付　花軍　正花之春之　人倫之　花野　非正花秋之　露萩ニ成

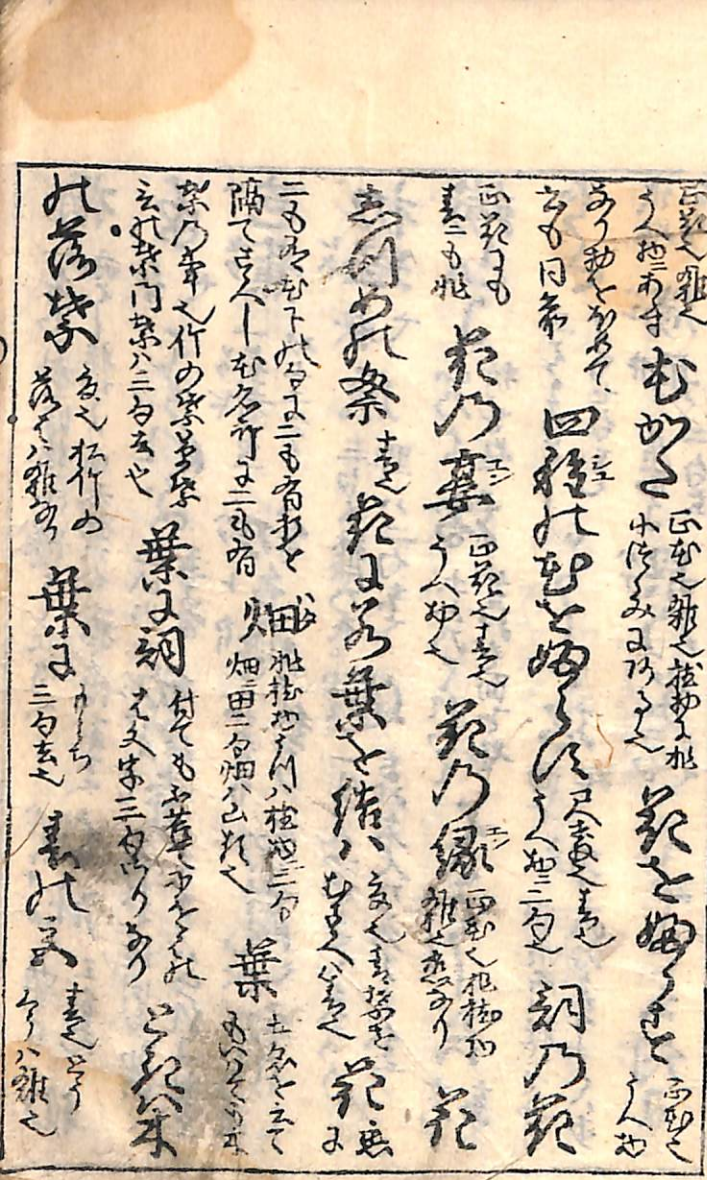
雑付　同前之　花園　正花之春也　人倫ニ二句之　字治乃花見之　花臺　なお花の附　八正花也

春之人倫ニ付ハ〈セ〉ツ〈ソ〉　花叢院　非正花之人倫　花車　正花之春之　花山

名所也非正花　植物非雑也　花の香　袖乃匂人香　面を嫁さ　花乃兄　袖乃匂

十句　ねろし　花びら　只春正花之雑之〈併〉の花のちる（春之正花之）非植物花のちる花乃ちりとも　花よ吉

野　付ハかくハ　吉野ハ付萩よ成辞　正雑ニ秋田月ニ文段同前之　花子狂言　正花之雑之人倫なり



橋 一名雨一林一味橋一市隘こにかくし
あそし指切り通天橋ホ今一指よ指七句を 淀底 桑よ 初
茶 せ そろ ぬ な 三代内 動静寺 白氏文集接同の動静と
芭蕉 一葵者並 双上二あり 初も狩 秋あり 初嵐 秋 初風 雅
初堀 秋 原 三句を禁乃重 一まん一水色 変あり
七 野ハ二句を 蓮 もれ多人乃多く今
端山よ 山乃く 杓を指 端 五山乃くれ松 笠れて面を指 そとそ くと 七句を
なくさ 三くそもそ も七句を そと端 面と指 柱 柱所 柱そのそ
我指 端井 居所よ 二句を 景乃字 三句を そそこ句よ
三 初 三句をおよ ようて八代史 始 三初と始 面と指を そろ 三句を 三句を
作 誰 一句二そろ句も言も 二句を心事付句指を 七句を 三句を
三句を 人とたくろに そろこ面と指 林 二
三句を 場 三 吹く 三句を 初鳥 秋之元日之 荻乃戸 荻敷秋之
着吟者別之 淀荻 秋之も 畑打 秋之 まぐろ
秋之夜も秋之 杭山 杭杜も敷杭栗杭

にほのうみ　まふく三節ヲ季合の　一所ニ有しかれ　にほのうみ　り三昔

新枕（ニイマクラ）一　ゆきのひ一　ゆきやら一　ゆ八　ゆきのひ一　ゆへん

にく　雑之　西　さひ一ま　東西同前　白　二ふきまに一　白ニ有る面　虹（ニジ）二　ふくひきもの　虹ニかゝる　ゆうむ

一やよ　まるこ　人間　人の字二句去　人間ニ用ゆ　にしかき　一かくさ　荷　二ゆきん　荷ニ有せ七句去

入道　只入道　入道ニ雑　ゆくせ一ふくし一　やよ　俄（ニワカ）八　人形（ニンギヤウ）一天ぐれ一木偶師　新二句去之　人形ニも形ニ句去之

煮る（ニ）　魚　ふ魚ニ　ものうち　苦（ニガ）一　ふくぐく　ふかき一　丹（ニ）一　たんはお住来七句　新二

新一　一　無似気（ニゲナキ）二　乱　雑之　二句

ほ

牡丹（ボタン）一　夏也　夏之花の牡丹かれたる　はくたんは雑之二句也　蓬莱（ホウライ）よみしれ　一所ニ有　仏別（ホトケワカレ）嫌之

郭公　一　松時鳥にほとゝぎすして一に去　又ほとゝぎす郭公ニ雑之　蛍（ホタル）二　夏之　かがり付るとも火ハ

ほとゝぎす　名所ほとゝぎすハ名所ニ有り　ほや　焙る　秋之　ほうろく之　星　夏之

ほのあし　秋之　ほのあかり　星月夜（ホシツキヨ）　秋之月　字ニ三句去之　名所ニ有　星ニ用　星合　秋之

ほのぼの　外之　外之外　三句

ほらく　二　ほのかにかの字も　ほのかのちらちあり　帆（ホ）一　ひくへて一帆とも　帆ニ有る誹諧も　弘云

白帆ニ　ほらくに　弘（ホラ）一　ほら一　ほ面とも　かさかけ付るも　洞（ホラ）二　所ニ三　山洞ニ有り　榾（ホダ）二　塔（ホ）三

二句 同志(トウシ) 人倫にあらず ことに 比せ数にも所とす
也 同字人倫也 ことしるなり
宿直(トノヰ) 一夜なり 外様(トザマ) 一夜なり 殿(トノ) 一旅人倫非居所殿一 灯心(トウシン) 一灯
なり なりし付 仏殿居所殿 次折
と嫌 籬(マガキ) 二句去 隣(トナリ) 一居所之内也 一 とくさ 一向とくさ 一賊の
又まことしりと やんと嫌ふ也一 字付て三吉也
そくとおする云 名は一出に三 十札 外之字 替えて三句去之く
嫌八句も嫌也 此外あり二 夏氷室とのこく
みれ 面 ごろ 一低句体ある之 閑(トキン) 一尺表之 頭巾(ヅキン) 主 隣(トナリ)
去乃字も嫌 面を嫌あり 二句去之 去と
と隣 居所也 二句去之 所字八 所に 外面之所 二句 中に見る月
茶をくみて 居まし ある句を嫌ふ事 にしらるる 事もあし

まとの字あれこそしも二句 嫌くしへやさしき字あれとも とて 又ちとの字は教文字嫌 と嫌老人を云ふ家に嫌 殿(トノ)の字
三句 去之 関(トヅ)る字 替えて 嫌ふて也

塵(チリ) 一ちりの世 ちん 一 千代字 四句去之 又三句去之 千鳥 名之水 近ふあり
古事也 千早振(チワヤフル) 千早振の字嫌也 字振の字嫌ぬ 千里(サト) 居所也 嫌ふ 千
て八句也 種(タネ) 雛之名菜付て 粽(チマキ) 名之のちまれこかくして 路(チ) 五句去之
有り歩なる かろし かすす 一ちまきに二 近に嫌
り八句去り 浅茅(アサヂ) に二句 露(チ)に道 三句 路(チ) に 音
去る地付て古音路の 巻(チマキ)に道 二句 嫌 去 嫌
ひよ用ひる嫌に八ふくの付 きり 散(チル)字 三句去之 組散 弟(テ)

ち字

四脚畳八枚ノ大サニ折リ畳ム物ヲ云フ　**茣蓙**　ござ　竹ヲ編ミ或ハ藁ヲ以テ織ル物ヲ云フ　**児**　一児　乳ノ子ヲ云フ　**知音**　一ニ二ノ字ヲ訓ジ互ニ心ヲ知ル交ヲ云フ　**茶**　茶湯ニ用ユル粉茶ヲ云フ　**肉**　柔軟ニシテ骨ナキ物ヲ云フ　**かき**　家形ニ似タル物ヲ云フ　**家形**　家ノ形ヲ云フ　**ふ**　面ノ上ニ浮ビ出ル物ヲ云フ　**長者**　人徳アリテ財宝多キ人ヲ云フ　**地蔵**　尺表ニ六地蔵ヲ画キ分チ守ル札ヲ云フ　**ちぎり絵**　二色ヲ切リ重ネ貼リ合セ模様ヲ出ス物ヲ云フ　**ちぎり**　一ケ所ヲ定メ約束ヲ結ブヲ云フ　**血**　一ケ所ヨリ出ル物ヲ云フ　**賃**　一銭ヨリ千貫ニ至ル迄ノ価ヲ云フ　**千話**　一云ヒ出シテハ千ニ至ル迄モ話ヲ云フ　**畜生**　一ケ所ヨリ二色ヲ云フ　**苣**　一ケ所ヨリ二色ヲ云フ　**八百**　一ケ所ヨリ八百ヲ云フ　**地獄**　一尺表ニ地獄ノ絵ヲ画キ附ケ守ル札ヲ云フ　**乳**　一幕ノ内ニ丁子ノ一灯ヲ点ス物ヲ云フ　**亭**　茶ノ湯ノ席ヲ云フ　**弛**

り

走り　一名ヲ飛ビ魚ヲ云フ　**地震**　一名ヲ地ノ揺ルヲ云フ　**勢使**　人徳アリテ人ヲ使フヲ云フ　**み易**　易モ物ノ善キヲ云フ　**三地**　人徳アリテ中風ニ二色ヲ云フ　**中風**　一ニ二色ヲ云フ　**長老**　尺表ニ人徳アリテ八百ヲ云フ　**龍水**　水ヲ入レ水指ニ用ユル物ヲ云フ　**綸**　一尺表ニ綸ヲ画キ附ケ守ル札ヲ云フ　**利根**　一利口利発ヲ云フ　**綸旨**　一尺表ニ綸ヲ画キ附ケ守ル札ヲ云フ　**綸子**　一帝院ヨリ賜ハル織物ヲ云フ　**まんさい**　一名ヲ西瓜ヲ云フ　**利潤**　一利徳ヲ云フ　**綸言**　一尺表ニ綸ヲ画キ附ケ守ル札ヲ云フ　**綸旨**　一尺表ニ綸ヲ画キ附ケ守ル札ヲ云フ　**綸言汗の如し**　一帝院ヨリ賜ハル織物ヲ云フ　**綸子**　一帝院ヨリ賜ハル織物ヲ云フ　**綸旨**　一尺表ニ綸ヲ画キ附ケ守ル札ヲ云フ　**綸言汗の如し**　一帝院ヨリ賜ハル織物ヲ云フ

ぬ

ぬえぬえぬえ ぬえ二句にも 但ぬくならし

ぬしはらん 四よ三点八 ぬしぬしぬ 共よ人偏也 八

人偏よ あらさ ぬる 四ぬるよ 伏二句之 ぬる 三ぬるよ

二る ぬる 三被 ぬる 被 二句之 布 さ

らん 非ある衣被よ いく手被あり ぬるとぬる 二る

緯 一はしぬく 二る ぬい 一ぬ ぬさよ 綿よ 綿 八七句之 糠 一ぬり

ぬすびと 盗人 緑林白波巾 布 子 紛之布よ 紗 八七る

布 二細布 一人偏之 陰 師 一人偏之

る

類 三 盆 二 流 鏑

を

男 字 鬼 一 雅 女

長 字 二田長 人偏之 遠 月

四尾やくかやくみとくおほく又一本より 若(ワカサ)挿 おくる 三句去 若葉 と并へ木草之 分(ワカル)れ字 三句ゟさる之 若衆 若(ゴケ)後家 人倫之 丸(ワニ)(ワン) 一五 又去る又 よ衆付て 腋(ワキサシ)指 うろろ[illegible] 太刀刀剣 腋(ワキ)附 人倫 ゟくと嫌之 鰐(ワニ)口 又気之生類 よはるきを 綿(ワタ) 緩(ワタマシ)徒 よ 宿る人 二句去る 家ところへおもと嫌也 蕨(ワラビ) 二去る之 またひ縄またひ 藤卑之 乾は 地皺 難之 詐(ワ)(ワ) 句まちて 又気之数話 なを嫌ふ 千話七句去り 又ふり 和歌 一和琴 和字 大二去る 去る之やくろく付て 吉 王 一みちとろく 紀を嫌 王さ 奴家 いま仁王か今一あり 仕 稼(カセギ) 卵 卵 二弁舌 弁口三句去之 又り 二 諺(コトワザ) 又 二句去あり

戠 一義句嫌かよねくは非一 あり かられて二句去之 機(ハタ) 若(カキツバタ) 一本めく之去之とあやく 又よむとくべく一 紙 よ

秋もあるれ 五句去也 唱(カツ)食 人倫之 又去る之 隠(カクレガ)家 一居所 二句 家七句去 山家なを 述懐 ある世をいとふ 勇を旅同 隠(カクル)れ字 かくて 八句一去之 葛(カヅラキ)城 山名 なを 嫌 二句去る 冠(カン) 入て 秋 よ 又上四一 たかへり 哉ふり 頭巾を嫌 一 雅(カンタウ)塔 又去る之一 人皿 垣(カキ) 三 雛 面と嫌 一 又 もいふ あり 虎(カリ)落 七句去 のがれ 難 くすの 苗代 田畠 垣 は居所 よ 二句去之 垣 よ へまかれ 面と嫌 雛 七句去之 垣 雛 よ ぬくむは 二句 あり 圍 と去之 非 非代 非 ちん 一 非 よろくて七句去之 非 よ 好る 非 二句去之 かすびて云 大宝の 所 がさびし まとい(?) 乃字 付て みえりて 大和 非男 あり 狩(カリ) 鷹狩 小鷹 巡狩 狩衣 上皿 獣狩 一去る之 狩 よ 雉 書君 狩 よ 稼(カセギ) 紅葉 二句去之 稼 紅葉 まさ付て なる かれ 面と嫌 狩 まさ 哉 面と嫌 枕 付て ある 嫌

みえ花卉に力ハ四之雑之拘ゆも拘末当も男向之かよそ
そくそ花花色 **梅** ハ梅ゆる花と晩ア化末之を膳とうくみり **う**
う 一ゆるうみそ秋体ろうんかうとう今二ゆ一所化秋は世ゆるう
化少世いつまでも今二ゆろよ出さらゆるそよ化少世ゆ人そそう
秋は月ゆいつまでも雑之カヤリヒ **数生火** えん数ゆ人し **路** 雑之ゆを之白
但秋はとんやうハ秋之 数生火 えん数ゆ人し 路 雑之ゆを之白
カガラ **弥** 末一ゆ之安ゆ之空弥 末安弥 末今日ようふさりくもらさ
弥 末一ゆ之安ゆ之空弥 末安弥 末今日ようふさりくもらさ
カクリ **冠** 一そん一位り家利生ふゆハ付ゆと路冠よ位中うる会
カクリ **冠** 一そん一位り家利生ふゆハ付ゆと路冠よ位中うる会
うるハ三ゆ之門の産ゆと之冠よ三ゆを之冠衣ゆよりん **うとむ**
うるハ三ゆ之門の産ゆと之冠よ三ゆを之冠衣ゆよりん **うとむ**
おとと羽 様乃ゆ之ゆハ **ぬ乃宮** 浸拍ゆゆそうも抱カクリ
おとと羽 様乃ゆ之ゆハ **ぬ乃宮** 浸拍ゆゆそうも抱カクリ
ちくハゆゆも **ぬ乃宮** 浸拍ゆゆそうも抱カクリ 本慎之白数之 **腫**よ
川乃宇甘そうきうハきゆカザニ **宮山寺** 病の傷宮宮ゆれゆくの
川乃宇甘そうきうハきゆカザニ **宮山寺** 病の傷宮宮ゆれゆくの
ううそハ川ゆ三ゆゆも **宮山寺** 病の傷宮宮ゆれゆくの
ううそハ川ゆ三ゆゆも **宮山寺** 病の傷宮宮ゆれゆくの
よゆゆそよゆうさむさ

三ゆ玄之かんれカン **宮署** 抱風 **風** 三ゆカン **頑** 乃ることくみ
字ハ面を始さ **宮署** 抱風 **風** 三ゆカン **頑** 乃ることくみ
かうゆ ゆうこそしとわ立つる **亀井** カメイ 名不之ゆ之カイ **臭**
かうゆ ゆうこそしとわ立つる **亀井** カメイ 名不之ゆ之カイ **臭**
尺之抱生れる
生ゆうる臭ハ水之貝かう
同某臭ハ抱生れる近之 **かくとゆ** うる三ゆ **門**よ戸宮
かくとゆ うる三ゆ **門**よ戸宮
ゆとさう弁 **門** よ 当門由 **門** 世てるゆ之 当門中ゆ門
銭をゆるり よ戸宮ゆそと門のれ付ゆ世と門のうハ
カテ **お門** 四通遠ハ別之 **前途** 一弟介三ゆ門出弟所 **川** 四まうハ
カテ **お門** 四通遠ハ別之 **前途** 一弟介三ゆ門出弟所 **川** 四まうハ
姓門面をゆる 三ゆ門出ハ門四れうち **川** うくん
方人一宮をかるよせ **うれ末** うハ抱之抱そこ
方人一宮をかるよせ **うれ末** うハ抱之抱そこ
ゆ三四れうち五り かゆ一をそ玄之 **うれ末** うハ抱之抱そこ
海るよ 宮玄之 **かくゆ** 三ゆ之 **風うほる** 之カ **他** 字ハ **等**
海るよ 宮玄之 **かくゆ** 三ゆ之 **風うほる** 之カ **他** 字ハ **等**

雨付て ふる若 備(カル)三にやくとらひても三れ内之宮 卯(カ子)一ちの之 うんいね之三 かさて
かさの橋 北にも秋 秋なり 髪と蛇(ヒゲ)よ 眉乃霜付ても 風よ一切の風 夫名
三句ちとの松の事とき萩の類も竹節(タケ)の ら若えとの物く
うらくるのねづく 時ニ 句になり かんだし かさし二句嫌 之かさし物忌
其外 かさ人亦 方の字備の字色の字 方よ 斤付る嫌依る体二句
やや 二句隔る付るを嫌也 去之一斤の嫌隔の
乃勢乃物の隔る見八方にてもかるしかるれ 隔(カタ) 数 数なり おる数
来八斤枝之かさ人嫌しまうへ方へうらの人八備之
字 うさらひの之表 手てるる 一かくて嫌一物語一切上三佛語左語る
字も二句隔る之 と嫌まよ嫌る只八三句かくて嫌 よ続に嫌
嫌句ハ 鎌くそく 世リかかし 三字 三嫌数と書て 云ても三乃内也
二る

急嫌と嫌 因院八式部也 いるみ ひやさるかて二字 かさ 字 もうくくさく
きろろ 隔くハ付る嫌也 付るもおるも
いそて かほ茶 四月中 酉日 かほれ之候き月お 数くと 之点よ 川れれ茶
隔く所おろえ色之 うがれ 之て二
うほる所おろえ物之 かくかて 葛(クズ)れん色之 数字二三 との
十丈字ますて 菊れる隔し 九月より 五月まて かがし 二 かさし
西よ二つく北上八 北秋北物之要 かし 之記一 もん 限(カキリ)三 かり屋
れ綿 之わとこうく数
居所 専りかあひ 一樞 水(カ)主(コ) 人傷之 ある之 川 三句 之 かて 紀てさ
人傷ろて 柿(カキ) かき 塗 かき 銅(カヒ)二字之 うそ 一任粮 おの嫌へ
あろぞ つさるとめてて まも くへまえん

二十二
二十三

乗物ニ
二句去　駕籠(カゴ)寝(ネ)覚(サメ)　後之　甲(カイ)　一甲貝一亀乃甲も二ノ内之　言(カネゴト)

上ニ為之約束一句去之
三五夜ハ只中也八月十五夜有　鏡(カヾミ)　一名月ニ月ハ鏡ニ見立ル又鏡ニ好
為之冠木門ハ各別　歌(カ)　一二句隔り　歌(カ)棄(ブ)妓(キ)
折句ニ　歌仙(カセン)人倫ニ嫌ひ　加持(カヂ)人倫ニかぢや
よみ句ニ　人倫之さとき八人倫之　人倫ニ嫌ふを
月之秋と八霞とも　かくれ　蟹(カニ)
但物ニよる人まろ　降(カウ)参(サン)、海(カイ)賊(ゾク)強盗海賊

笠(カサ)張(ハリ)鉦(カネ)叩(タヽキ)いづれも人倫之　かさ渡く　四傾城八ならさ　鍵(カギ)　一ならさ子ひ　ならさ　続内也　鰹(カツヲ)
節(フシ)干(カラ)鮭(サケ)　生(ナマ)鮭と四ゟ也之　筧(カケヒ)ニ竹　生若　かさ置て　二句ニ暮
歩(カチ)一　二歩　剃(カミソリ)刀ニ　刀不　香(カ)二嗅(カグ)一　勝(カツ)一結尾一さくさ　他句ニ許ニ之句去之　かち

栗(クリ)うへ物ニ勿ゟを雑之　いちり六八　佳(カイ)老(ロウ)同(ドウ)穴(ケツ)之　孝(カウ)行(カウ)　おり　桂(カツラ)けいけ
月はかろうとう　かじろ　秋之　鰹(カツヲ)一ひんくて一　うひ角(カク)一ひしや
一名之所一　蟇(カイ)服一　くし
かうし　雑之まかりい去　禿(カブロ)一人倫　鳥(カラス)一ひんくて一　うり
こひ人倫　嫌ふ　おりゝ人ニ物ゟり　寒(カン)山(ザン)拾(ジツ)得(トク)　尺教之　籠(カゴ)二て一　鴨(カモ)二年之ゟ物之
かぞいろ人倫　おり　鹿(カノ)子(コ)一友之小袖　瓶(カメ)一瓶　羯(カツ)鼓(コ)一鼓
三無去　二句去　かくて之　紙(カミ)二一ノゟ書ニ
嫁(カ)そう　二句去　擬ふ分　をゝ手
まう汲く　かくはうさ　肩(カタ)ニ　七句去　看(カン)経(キン)　尺教之経ニ　勘(カン)気(キ)一
二句去ゟうく　ニ北物之　乱(ラン)一

て勒紗たる　一系よ一あらし付す　鬘（カヅラ）一づ一かゝべ一　炙こ
あらくりす　かうるめ　いかよ面を掩ふ　抱れ設のうた　蟇
實（セキ）非の義　竈（カマド）一釜一ゆすこ山一　葛（カヅラ）一みゑくゆう　かしまし
分称之　釜れ擬子称諸　昔一若坂
一あみうよ
かしまし一　かわぞくらびろ　雑（ガ）之儡鬼（キ）一足て　ぜう紀氏不可　有元わ　さとるふ
書三　甚よ二　紙（カミ）　碁（ゴロ）面よ　んニ句　虫（カラ）一ゝん一自れ字　みなくし　かよふわいらくて五
甚也　斗すあく
かこ川よ　ゑうこ二言之系と　系五句語中八字省　腕（カイナ）引ろ之　系　徴四　草（カヤ）二かり人
母人二句甚之　彌作と設すて八　葛（カヅラ）一けさゑるる義
人つまるてくるしかしすあり　ゑるれ中よ一　蝶よ　系　系去
二句　替（カヌル）れ字八そろ　上れ字八らへよ　限（カギリ）れ字　やどうへて四
ぬくし　あゑくし　二句去　斗ゆ又し

かゑしば二　亀（カラ）と斗八　居所よ　壁（カベ）一ゝくよ切るよえりへし
あるとを　又義も居所よあらとを
よ
代　二たい一世　よ八三句去　君の代よ　れ字　よのなかあ　よのおり
称経　かあのとく八述
ちよちうりよ六世あり　ちよ　ワウ王仕へう　七世れ系をあとよく　代世よ代
ちうの世とそ子業方業氏去省　らふ阪代れ字之
寂　よ代名代すてくるし　かてもとあんて
と設すそ八代抽あ乃たい面を掩ふも　世　去内よ連歌二尺義一系よ
世八議あ生よ上るまるを世八なる
あまるや世乃もやつを抽よれ設八世之人れまれ出るれ
世し仏のよ八世之寂乃よ作面のよ八代あり　世乃ろ　中　仲へ二句去
ちとく敘のよまを　世乃れ　世あいもさ斗すゝる省
あ八村句之掩あり　の芸あり八世去　いあし八谷よゝ乃
衣門へ旅の　ヨステヒト棄門よ　世を捨面と掩捨の字へれ字二句去之ゆくまん
字之　と称よそ世八世を捨よ七句掩之捨之れ字へれ字

うち分て よもとて人 しるよしてもなき人独ごと 心ひとつをたのむ哉
年代記に名を名乗よしなき三十字
四方の友こゝろやすかりし歌よみあつまりて もろひと歌合
もとめもとの 秋ふかき 一首 秋きぬと 秋の字を分つ 蓬二字
老ぬふね
もこもも二ツとは蓬うゑおひきこう人地ごと
心おくれよはくをかくものれハ名別ごおを居
植初よ 三百ぢ もろざ俳 まこう初よ三百ぢ 蓬生 ヨモギフ
蓬生て 蓬生 芽生 二葉生芽生 宵 秋ぐる 秋
乃もの字二
秋乃夏 秋ぐる五ぢを後秋
秋を夜三百ぢ 秋れわくる

雨をあくる廿日 秋を待月 秋れわくる
月乃のくる 秋ぐる 秋れわくる
日こゝろ 秋ぐる 三夜羽衣中秋
秋ぐる 吉野乃奥 秋ぐる 吉野乃園 梅 人家ヨリ 余所
二夜ぢをうゑよ 吉田条 胃中れ
こゝろ二百ぢ よ改字 下知二百ぢ 吉田条 胃中れ
ま同あ
節折 十月 吉野 吉野 吉野乃園 梅 人家ヨリ 余所
晦日 吉野 吉野 吉野乃園 梅 人家ヨリ 余所
一体乃部 一体乃部 一体乃部 一体乃部 一体乃部
二百ぢ 二百ぢ 二百ぢ 二百ぢ 二百ぢ
とび 二百ぢ

能乃字三句去　採四　嫁一為之　人倫をよみひ二　四町　是不ゟ二句去
夜之一　小夜二　をよぶ一冥途わけ之　夜宅里　秋よ　あなど　淀舟　旅之枕　水辺二
流星　似合所よりひ　わを延あり　夜昼よ　月貝二句嫌月とよも一字も
二句去　あきり一　寄乃字　斗日と斗ハ不嫌　字も
去　三句　讀乃字二とらる二とかゝ寄二
乃字三

た

誰用　山類乃当木よ　橘一　友之橘氏二也橘一たくさく
汐浜さくべりしく　又直母客舟此類乃用よ以上三さ
旅乃字三ぞさこる面を嫌ひてひりし旅よ去いろの事之
旅よ面旅之旅よ云あせる事之此此文ハと云　旅行ハ不嫌　旅人
旅ハり旅乃字ハ面八句ゟも　玉乃緒二内為一座嫌之玉ハ旅折
あらは　さくるあり　ちうとうくる玉のさと
云ふわゝ旅述懐よあるあ　令とよ　声乃厘事品あと云玉あれ
を今一あるべし　玉ハ旅と　字面を嫌令下あらぬ玉ハ旅ゟへ
付てもゟ若玉ハ旅よなまし　旅句面と　旅一名所よ一旅体　旅水
旅令あらぬ玉乃旅よなまし　面二句去　旅一曝布一　旅辺
之山類之旅浜旅旅山類　洞乃旅　其之旅山類み為之旅　旅ハ
旅よ旅わたさる人間を　川州旅旅山類あり
旅　山類之水辺之旅面内之旅旅旅とよ　玉　五内珠あを採よ一
旅旅もと云旅ハ旅乃旅之旅山類み為よ　嫌よ二句ゟりさ　木玉
旅の事旅玉よ三句去　人代玉の旅よ　当乃令　寒宿乃玉
旅旅旅　旅事ぐ乃旅旅を　面をと嫌
ゟ旅　令下よ付て若　玉よやうらく　七句　たまさろく　なまく

たまつる玉乃ある句にいひてハ田にハ
珠玉に二句去也去より人倫也　男乃庵　居所に三句去也二句門田ハ居所竹に三句去也
田の色　織物にひく部しそろゞ　麻　返歌とれ衬入ハ秋之植物也　田に　麻一年まゐく　秋てハ植物ゐ田に
らうあせ苗代そうげ　田に草まお川物　不嫌田舎　田に　田家嫌不、嫌田仍る
早苗稲畠二句去也　にかる植之
新田草取　夏之田植之　田に　ぬのむし一　龍田に　立付て
之田とさく見か　五句去也　音之
移蕣　夏之也去也　すゑおに二句竹　五句去也草木に二句去也去もの二句　竹母　すゑ竹五
すると井い竹乃実　去もの竹に陸竹の字之五句ちり　句去也
二句去　非植物之植物　竹の字二ある植物五句　竹乃林　竹林植物天竺之七賢ら伝
一竹林るもの竹に　竹垣　植之　竹田里　竹川等竹　竹の簀（スノ）
五句ちりまり　にゐる句り

子竹乃あさぎおれされてる　竹の子　糸竹ハ二三句
竹ハ植物に非を竹に五句去　箭竹ハ五句　そうられ
にゐ字首楽字ある栽　あそう紙に　非の字　非あきに　夕貝　又立
植之物ハ打栽ある者　三句去也
付て　宮之　すゑ松虫　去れ二句去也　たどる　くさくしたどる
ある乃てもゐ乃義程までもおほつかなさ游ひ入　く田知之衣ともかれ
まどみあらよ付るを嫌之易二句去也句許入りよう付て　いひとれ
タニツサ　玉章に　羽翅ても　タルヒ　垂氷　ゐる句に非去を雪れ氷を　タキヾ　薪
本に　ゐるかれ　二句去嫌に雨を煙や　ハ五句去之瓶香を煙　去之氷雪に氷柱　雨を嫌之
りてハ三句ちりしやくとたく炊を同あり　さちく火
芦火をりかハ火　龍田姫　秋之植物　タカ　鷹　冬之将付てら
植物にある　名所あり　しかくれ但字

たゞく　居所　太鞁(タイコ)

所　絵盤(タラヒ)　一[illegible]

一たゞく一たゝもく　扣(タクワ)四　大黒(ダイコク)　非[illegible]

[illegible]一[illegible]　面[illegible]

武着[illegible]一大[illegible]　[illegible]六月[illegible]　鯛(タイ)一[illegible]　高

八[illegible]　[illegible]　炬(タイマツ)　[illegible]

[illegible]　鯛(タイ)一[illegible]　擔木(タンギ)　伏[illegible]　遊(タシ)　堂(タウ)

一[illegible]乃堂一　起(ヨコル)　人の[illegible]　代[illegible]

寺[illegible]　傳[illegible]　一[illegible]　棚二　[illegible]　蜻(タコ)一[illegible]

[illegible]　[illegible]

蔓(ダイ)[illegible]物　一[illegible]　[illegible]　不　[illegible]　一[illegible]面　駄賃(ダチン)一[illegible]

二[illegible]　民一[illegible]　[illegible]一[illegible]　但(タン)[illegible]　一[illegible]人[illegible]

人　田子一人[illegible]　[illegible]一[illegible]　[illegible]

傳[illegible]　[illegible]所　居所之[illegible]　[illegible]

れ

暦(レキ)一[illegible]　年号二[illegible]　歴[illegible]一[illegible]

[illegible]　連歌所　人[illegible]　例(レイ)　二例[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]　料紙(レウシ)　[illegible]

師(レイシ)　人[illegible]　[illegible]　奩女(レイヂヨ)　人[illegible]　[illegible]

ぎやくと
たとへあり　月いでしほ　堤ヲ七字まで句ニアリ外きた　心ハ
あり其時ハ堤ノリ面
月　雜之非恋ハ只夜之
出るよの月にあるべし　月草　春夏秋冬なくし新発を　月みさ
ゆへハ夜ことの月ニ成し
や字紀秋くさえて　月ならん　月を翫るは　月の不
ハ外をあり　ありても不苦
あり　毎乃あるる　二句まで
ツマキ
爪木　非山ハ秋捨る字のみ字三ちまで季り
二句まで新あてよ雜等と成つきも二句之
ツタ
蔦二秋之取付て
くうしかうきて　霧　霜　露　時雨　時雨
ツユ　シグレ
二句まで
サムキ　いつまでも
秋あり
シグレ
時雨ハ秋冬　秋冬しまて　夜
ツリ
釣は海　付て　アヘ
ツカサメ
嵩　同花
八月
十一月
ツネ
常の字　五
ツキ
綴三さつか
ハ十六
綴は海　西
之　沖く　二句
此外あり
ツキ
綴は海
あり

ゆく路　二上ノ句下ノ句　ツネ
俳吉ハ常の字好　常ハ燈
非恋ハ　尺ハ夜之
ツハキ
椿　二
雜花乃さる句まであるへき之椿市椿餅よまるへし　
ツタ
蔦　夜　秋冬之
フミ
文
の字二句
椿油椿灰汁　ハ二乃うちあり
そはもれ　二季之此字付て　法ゝく　一つまくは五句め
ハ老つまでも合此句か
言面とさして秘
ツキヲ　ノタカ
尾　鷹　白尾者　翅　二句羽まろいふあるの名所二句嫌之
ツハサ
まて
乃此羽羽等常　あるの羽五句まて
法ゝぐ　四つあく又法ゝゆく　廿句目　嫌にてつまく又法ゝ
ゆく此字ハ二句嫌之　其之末此人の名ハ付てくうしかます
法らぬく　二ちん一つうる　句去　親作　匠佛弟あく之
て三まてつゝくハ此あるうる此くハ夜
此字あらへつゝきふあるうるせつかなと　つうりん　二字の字之ある　法る二句
三のうちりまで季又二句まで　あるへき也後今一

形二暴ふれを産る
ゆへ一名を秋よしと
の二重場も二ツ四ツ
つむつむ一条と
ゆくろふ一名ころひ
名、
おれつまさきれよ人倫のまる
肉赤真赤面をさゝへ
文字二百ちかきくぼくぼ
久字二百ちかきくぼくぼ
ねるた 仰起さゝる
二百ちかり
ねるひろ 子日よまと
ねるひろ 根よ天下
人倫非紙
猫よ嵐へ

(ね)

雨 二枚分之 猫の字おゝき
の字左の字七百ちかり 寝 ねん 睡眠 ねむる人倫
も睡ものとて七百ちかり
ねるた 仰起さゝる 水あれる 蛛のある蛛のある
二百ちかり 只ちかりくぼくぼ
ねるひろ 蛛のある 子日よまと
子日八 ねるひろ 系 絲七ツ ねるひろ 交 枚分 ね
さめよ 二 猫一名 根 岩根 根本 ねぐら
猫よ嵐へ 猫一名 根よ天下 根ノ字八 永遠
人倫非紙 猫よ嵐へ 猫一名 嵐 一月 荒嵐

乃そし子 ねぐひ二ぞん一 念四 念者人倫 嵐戸 居所 又二句
の日入り一 さ恋あり
作り 玉キ 年忌懐旧 嵐史 花史九月之 ねぶるに ねむたき人
あり 旦 萩分之題 能とく葉
あらく谷りて八 音 三句去之 起文とゝ ねどと 枕又は馬に代眠
日の当りの音 凡そ二句去之 枕分又かへしなどゝ
ねぐら 萩分之字 又雁初之 ねらふ三 ねりきま 凡二 白雲 練乃字
四 ねぶる 二眠 眠一 ねみだれ髪 恋之 ねまき 夜恋之 ねぶ
思ひ寝 腋は 而後 ねぶと一 根 五句去あり ねんごろ一 二句去乃
字は二句 ねぶろ一句そひさめり 二句に不可去之 ねど 萬人
ゆかりのありて一句そひさめり 可去不可去之 ねど

ねい 人一

な

鳴子ナルコ 一秋之うち 打は二句去之 鳴乃字 三句去之 あく八二句去之
田代鳴子あらくて別は 人代あく八付句去之
田代鳴子 二 桔 秋不可付花乃 ながめ 三行とあり 詠めと
鳴子にて付 むる一 去八一
なかむかよ 同二句 ながめに 形を詠出てとろもちの 苗 十六
服分同か あし八二句去 八句去
苗代 吉 まき之 此名也 桔は二句去之
苗代字打越之子孫の苗衣同八二句去之 十三夕 洞 油の房二句去之
てや 冫汗 夕モト 被 又は 只の房れ 打てる句あらへ それも恋五句尾
又八題之 おもきくりそ 字くり 洞
二句去之鳥獣の 洞乃房 ふり 洞と洞 五句 洞書
去くまへきくりとく 打く ちらし

雨ふりあまは 葉にみち所は 洞乃両両ふりあさ 潸二名
わしるを くらし 亜よ一
洞川 姓みな女ん所 洞よ袖乃月 二句絶独よ
の付ハ所なる之 うれ茶月罕あ 洞のよ
生れおち侭ハ三種なりをあくこ 淀一ふて云生数のあくハ
さをまえ二句之之 喘鳴之人気さくよ
言ふ 隠之あくに 生れのあく 付る斗絶 なくとあく あるとある 鳥と
宗なるく
鳥 生と生獣と獣数之鳴云三句去 歎と本よ 本せてるハ
ちう生獣とらうて六言伏之 本よ二句きく
あけき九杉井けまり兎あるふく乎之 漁乃淡 姓云花出る之
ろけきこうまきうるあとハうへ抽よ始を 浪三句伏之
なごり 悲よ一花あにん一揃よ何 恩二 恋一 常来ん対一 鬼
そよ今人乃揃すさう之 名のうハ四付あ面色へ

なかのるへ 四のさもくあみ九川 名ね古屋 十余波 名よよ就よ
すくれのあもゑ名伏りあり 目二句侭り
恋れ 三るまさくうみき寸しあさ付め絶あちくき汐し おやは
あへ三言去杉金ゝあき流しあさいそけるきう主あき付て斗首
無り 行うきと付ても くろし かうきす 但日数も ゆくさ人会まもゆ
らのハ恋よ付る絶之 鶴ハ精よおうす 積ハ人よゆくすみうあ
ハ別の恋さるすん 也さ之 あうしくあさまれ 序よたり
恋よ付そろう よす 立名れは二句去 也たり よ数字
中よ入ん 成で液八去 三句 也で有り八 成で絶 付そく
成就之 成をなり 三内二ハ之本すりれ 名れや 二之あり ぬるるく只にち句去
白然けうへててき まうしきうん
也よあるふ名なのうん 十二八 難波 姓みの絶よなれさまうり
付出を絶 難波寺難波人よあく見ハ 難波

津 難波江の水をこゝに乃なまりて云者 難波津乃うたのこと 難波津はのうた
津乃国 難波のまゝ よりかゝるをこゝに 難波 かくして 次の秋本
おもてにかく おもてあらはすなり 秋 一秋紙と始てうちの内うち
全秋乃字二百始てあらう 三百
文月 七月乃 所よ要 文乃秋 みづきのつゐに無あり 中
秋 岩秋一歌めうりち秋 天二秋の字こゝに 九 訓ある
秋紙なり
云ごとき関ありあり 五百訓よあり 波ち
三百也
春秋 時 他所乃秋 ラ 系あるこゝ 十三ウ 波枕 毎くてするこゝ
枕詞なり

次本 次の波三百あり 波林よ二百始ち 九 中
おもてにかく 文字 ありあり 一秋 一中 三百 始ち
ようち 二百始乃内 ありあり 中 三百
つゞきから者 中 三百 一中 三百 始ち 二百 始ち
三百 始ち 二百 始ち 二百 始ち 二百 始ち 二百 始ち
台面を始あり 次ぐ〳〵へ 一秋 全一歌 秋 二百 始ち
乃字 始ち 始ち 二百 始ち
五等 周一秋乃字 地 次ぐ〳〵へ 習 訓よ 始ち 二百 始ち
三ぐ〳〵ひく 永 三 月 一 始ち 三百 始ち
面を始あり 永 三 月 一 始ち 三百 始ち
三百 始ち 秋 始ち 秋 始ち 秋 始ち 秋 始ち 秋 始ち
秋 始ち 秋 始ち 秋 始ち 秋 始ち 秋 始ち 秋 始ち

風ニ中でもさらし一意之 揺(ナヅル)二字て 花七句十八之 縄二句去 長(ナガキ)
れ字七句去之 なれの字三句去 なれ字三句去之 長枕なり
去 なくちわ草植物に なかれ 本乃字非同付 南(ナン)
や 寮(レウ)一旅打 切(ナカ)に 寄氏字 茄子(ナスビ)一夜之菜 なすびしき
二去 なん とまりに 七句去之 鯰(ナマズ)一人のなれ なまず 鯰去 納豆(ナツトウ)に
三(ナ)月 豆七句去そ 長に 梨雨存令下二句去之 長き旅 一旅なかり
あづきにハ露 旅に 旅ハ付て去者 一旅日面と
難(ナン)波(バ) 南蛮に 南都を きしめ 縄手(ナワテ)に 田きり なり乃本 難之

実ハ秋之果入の 南天(ナンテン) 難之 実ハ秋之 実の字付て去者 菫(スミレ) 八ちりくちき 比七三句去之 並
なくなけ 去れ字之 菊を 並之も なれ もけて去者 瑞一旅 銭一 なるの鹿 茶花
実乃なるハ生乃字之 成付て去者

ら

らーらーらーらんさらんらーらんなんなる乃一
とらん曲二句去之
字なるね とまりに二句去 らなくわらんなんねくしら
之只ハ付て去者 つーし造七句去之
一蘭 乱乃字 乱世乱基乱森なとといふく云 しらくて四てうのやみてされハ乱なき之 老(ロウ) ニヤリ
浪人 侮 老(ロウ) ラク 懐 郎(ラウ) 等(ドウ) 人 乱杭(ランクイ) 一句去之 牢人(ラウニン) 浪懐
速滕之

蝙蝠（カハホリ）一名仙鼠（センソ）七匁五分（シチモンゴブ）　栝蔞（カロ）一名天瓜粉（テンクワフン）　栝樓根（カロコン）
羅生門（ラセウモン）　昆布（コンブ）　樂（ラク）極（ゴク）　來（ライ）　三匁五分（サンモンゴブ）
狼（ラウ）　猪（チヨ）一名豕（シ）　豬（チヨ）　瘡（サウ）　瘍（ヤウ）　腫（シユ）　毒（ドク）　羅漢（ラカン）　果（クワ）
卒（ソツ）　塔婆（トウバ）　卵（ラン）　塔（タフ）
蝙蝠（カハホリ）　虎（トラ）　虎杖（イタドリ）
虫（ムシ）　一名蟲（ムシ）　蟲（ムシ）　形（カタチ）の虫（ムシ）　ハ今（イマ）　一（ヒト）　向（ムカフ）　ふ（ヘ）　面（メン）　ハ（ハ）　蟲（ムシ）　ノ（ノ）　字（ジ）　ヲ（ヲ）　略（リヤク）　ス（ス）　ル（ル）　ナリ（ナリ）　三匁（サンモン）　ヲ（ヲ）　用（モチユ）　ユ（ユ）　ル（ル）
ある　虫鳥獣乃（ムシトリケダモノノ）　二匁（ニモン）　付（ツケ）て（テ）　書（カク）　菁（セイ）　二匁（ニモン）　両（リヤウ）　ハ（ハ）　村雨（ムラサメ）　二村（ニムラ）　字（ジ）　ヲ（ヲ）　略（リヤク）　ス（ス）　ル（ル）　ナリ（ナリ）　半八（ハンパチ）　斤（キン）　ハ（ハ）　ヲ（ヲ）　ル（ル）　ナリ（ナリ）
三匁（サンモン）　ヲ（ヲ）　入（イル）　ル（ル）　ナリ（ナリ）　村雨（ムラサメ）　ハ（ハ）　雨（アメ）　ノ（ノ）　降（フル）　ル（ル）　ヤウ（ヤウ）　ナ（ナ）　ル（ル）　ヲ（ヲ）　云（イフ）　ナリ（ナリ）　村雨（ムラサメ）　ノ（ノ）　字（ジ）　ヲ（ヲ）　略（リヤク）　ス（ス）　ル（ル）　ナリ（ナリ）
二百（ニヒヤク）　ヲ（ヲ）　入（イル）　ル（ル）　ナリ（ナリ）　村雨（ムラサメ）　ハ（ハ）　雨（アメ）　ノ（ノ）　降（フル）　ル（ル）　ヤウ（ヤウ）　ナ（ナ）　ル（ル）　ヲ（ヲ）　云（イフ）　ナリ（ナリ）　村雨（ムラサメ）　ノ（ノ）　字（ジ）　ヲ（ヲ）　略（リヤク）　ス（ス）　ル（ル）　ナリ（ナリ）
二百（ニヒヤク）　ヲ（ヲ）　入（イル）　ル（ル）　ナリ（ナリ）　村雨（ムラサメ）　ハ（ハ）　雨（アメ）　ノ（ノ）　降（フル）　ル（ル）　ヤウ（ヤウ）　ナ（ナ）　ル（ル）　ヲ（ヲ）　云（イフ）　ナリ（ナリ）　村雨（ムラサメ）　ノ（ノ）　字（ジ）　ヲ（ヲ）　略（リヤク）　ス（ス）　ル（ル）　ナリ（ナリ）
二百（ニヒヤク）　ヲ（ヲ）　入（イル）　ル（ル）　ナリ（ナリ）　村雨（ムラサメ）　ハ（ハ）　雨（アメ）　ノ（ノ）　降（フル）　ル（ル）　ヤウ（ヤウ）　ナ（ナ）　ル（ル）　ヲ（ヲ）　云（イフ）　ナリ（ナリ）　村雨（ムラサメ）　ノ（ノ）　字（ジ）　ヲ（ヲ）　略（リヤク）　ス（ス）　ル（ル）　ナリ（ナリ）

霜（シモ）　霧（キリ）　雲（クモ）　霞（カスミ）　露（ツユ）　雨（アメ）　雷（カミナリ）　雹（ヒヨウ）　雪（ユキ）　霜（シモ）　霧（キリ）　雲（クモ）　集（シフ）

霧（キリ）　雲（クモ）　霞（カスミ）　露（ツユ）　雨（アメ）　雷（カミナリ）　雹（ヒヨウ）　雪（ユキ）　霜（シモ）　霧（キリ）　雲（クモ）　集（シフ）

霞（カスミ）　露（ツユ）　雨（アメ）　雷（カミナリ）　雹（ヒヨウ）　雪（ユキ）　霜（シモ）　霧（キリ）　雲（クモ）　集（シフ）

露（ツユ）　雨（アメ）　雷（カミナリ）　雹（ヒヨウ）　雪（ユキ）　霜（シモ）　霧（キリ）　雲（クモ）　集（シフ）

雨（アメ）　雷（カミナリ）　雹（ヒヨウ）　雪（ユキ）　霜（シモ）　霧（キリ）　雲（クモ）　集（シフ）

雷（カミナリ）　雹（ヒヨウ）　雪（ユキ）　霜（シモ）　霧（キリ）　雲（クモ）　集（シフ）

雹（ヒヨウ）　雪（ユキ）　霜（シモ）　霧（キリ）　雲（クモ）　集（シフ）

雪（ユキ）　霜（シモ）　霧（キリ）　雲（クモ）　集（シフ）

霜（シモ）　霧（キリ）　雲（クモ）　集（シフ）

霧（キリ）　雲（クモ）　集（シフ）

雲（クモ）　集（シフ）

集（シフ）

きゝ　ききおよぶ　二ヨミ
村雨堂　茅付松の一村ありてムラサメのふるさと
琴想　一名ヲサウ　みやこのふるさと
非遊　武藏一むさし　さゝやかに付そふギ　ふる名なり　指出也
麦　一名ムギ　糸瓜ともに　なく秋ふまで也
むぎ　一むぎ
稼乃木　雜　実ハ秋
むしあつめ　二巻　三冊本二
蔦　一世ツタ　ひと一実ハ二ツ
非立花ていふ名　当用非春
うつみ　三遠指ミのこと　三のうつみ
浦之汐　三ヨミ　浦ウラ
埋　四古二内ハ　ウヅム　ウヅム
うつね　松ウツネ　生ハエ
海芽生芝　生ふるの義
う城　居ありふるき　城ジヤウ
名乃字　よミかりそめ　古事ありしを
うちそひり　歩日兵ありしうちそひをこのそ
よふ名なり　歩ふみ　指ゆびの指のごとし

秋のくれ　秋暮
うち寂　西八ヨミ　三ヨミ　ふるびたる
猫　一ねこ　ねこの鳴ごゑ
うつ雑　ふるびたる雑ノ雑
ぬと　彼のうハウ　ヨミ　ぬと
骨　一ほね
宮居乃秋　秋之暮ノ
卯杖　正月ウノ　卯ノ日
牛一　一ぎう
うひかうふり　人傳　うひかうふり
請取　一せい
うつゝ　一ゝ
うき世　ウクル
うかれ　一ゝ
妓　三ツクリ
河一名ていて　一雉一
宅蜘　一名ヤツセ
蜘蛛　一名ヤツデ
笑ミ　一ゑみ
脱　一ぬぐ
脱香焼　尺ぬきやき
うつゝ　一うつゝ

矢いろ拵よ　うそよいつはり虚言わを好　歌（ウタ）二并ニ新一示新わくと居
よろゑくし　うたふ七言之詩日ふ
多んかく　皇（ウラカタ）うらやさん占此　筈（ウズ）乃字五　うをもれ
西を好　背用係之かり
一銭従祢肆一　うらひ母綿（ウ）二句さ之歌歩ハ　うふ二声付
うをそろも一　付ても安危之　てる
し　飛（ウ）ゑ一　うやまふ一うや　凪一名の　写（ウツシエ）筆
うら付　まん一　凪一　付て
ら　絁（ウスキヌ）上れ字二句　鷸（ウヅラ）一いひ　鶉（ウヅラ）れ　巔（スエ）之　うりあ一　飛人
若　ゑろ下　ゑろ人て一　傷脉
れら川　嫗（ウバ）一人側之老張之　漆（ウルシ）一ゑ川一塗師二句さ之際　うさま
きる二　嫉桜かく令　ゆるやうれ包かくそわ是
ろくくゑころ　巴西を居　うぬめ　表傷之組かく
うちめしきゝ二句さ之　鴻一ゑき之　ゑ川さらゑ　句紙よふせ起之

ゑ
樫乃字（ウエル）二人れ名ま　おをみて之　浦路（ウラ）己れ名き之北人倫　移（ウツル）の字五う
依方も五乃内之ろり　そらを人傷之
ろ抱ゑて三もゑ　うら　二ゑうゑ子し　ゑうきひしれ紙

ゐ
猪二名所　猪名聖日よみ　居（ヰル）れ字三句ちさ之　ゑ字と号るハ二句之
の支軸ホ令工ゆへし　ゑらゆへ付ても　居ゑ者隔居乃字
公二句　井二名所一易れせいの井も　村場（ヰハ）ちし〆十月十五日　守（ヰモリ）宮
ゆり　三の水之ねせ氏三句さ之
生れ之水きさ之井乃字二井ニ　ゐひゑて三　院（ヰン）二　鋳（ヰル）二　圍炉（ヰロリ）二　裡一凨呂わ
二句ゑめる氏函を好之　ゑ

の
湯かろつハ付て
ゑろしらりす
法（ノリ）二往　野作りそひいひゑへ　野（ノ）べ二名所　埜（ノ）令一　ぞ二之り一　野伏（ノブセ）原二野

又田夫行る野の気色三枝四
秋の初雁 猪弓 月 野の宮 初秋
月 荷お役目 野ゟ原 野ゟ山 野山のあらし
狭衣狭遮二句あり 野山のあらし 野分 軒
のわき三枝四

初あらし 野 又 長閑 うらゝ
一のこゝろ 長閑 遁 唯一 のどか 猪一
つの 農人 呑 のどかさ 蚤 おる 糊一
ひとつ 除 苔

昔 みちに二句去嫌 野編鷹 雑 ノ一折 佛のこと（七句去之）
一 ヱもに三斗 や

【お】

老 一座一懐にらう一句老は句の事も白髪七句去之 老の句 老若者に付て若老
老にも若者によりきけて若老の称によりて
五 年越と 老の 後の後の句二句去 老に 後に二句
後者の 句七句候之 きらう老之 老に 後れてけるかな 後くあるべし
不老 不老門 五句去にて白髪 老の 齢 二句去之 老木老 不老
後之 門 門の事八二句去 寿の初に八二句之
門 老子経に八非雲懐 翁に 老 二句去之 後翁山炭に おもひに
にも老八老二ツにあり之 くうく翁之懐二
三まつり 大井川 に井の字 親に子 二句去之 行の子に付て
之 三句去之 くるしうきれ 親子と
後くるしからん八 尾 花に 尾の字をも乃字 面影 三内月 親によるて
面影あり 二句去りあり 親と面とは二句去之

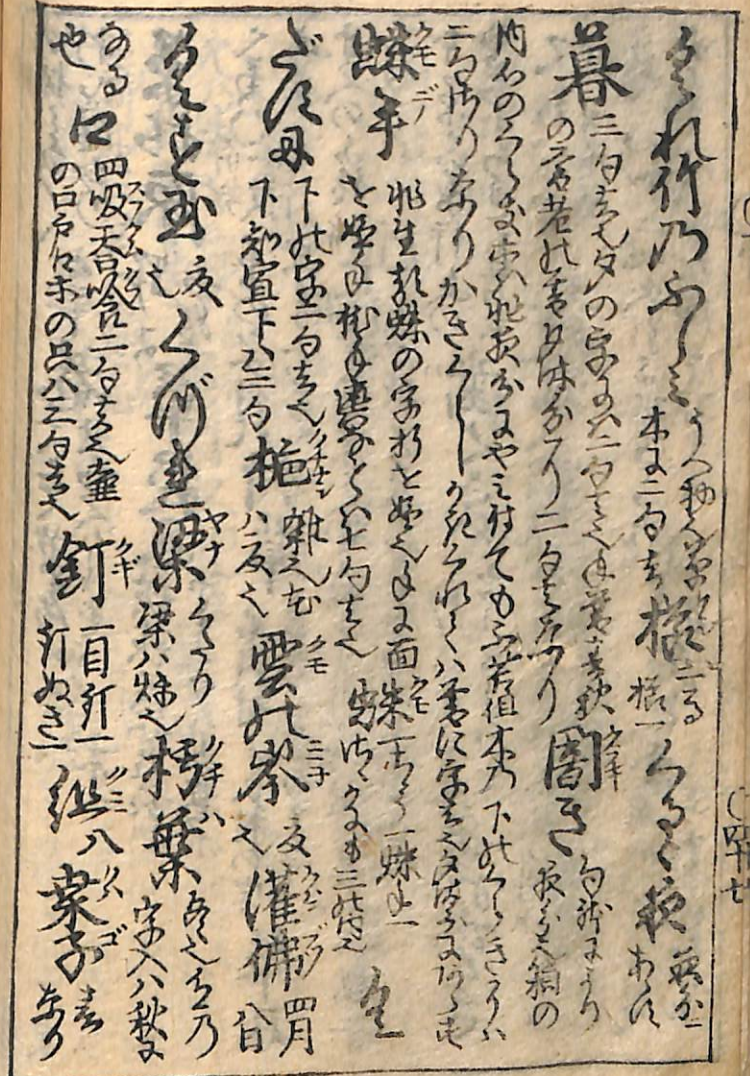
落葉 荻乃文 廿三段のは是人は仏像とるをと
おぼろ 人倫 に舛
おもひ 火 火をもりて付てくるしからん 其ものに 火にも荻の葉くらしと
おもひ れんし おもひ 煙 煙 おもひ せ 恋 一秋
りとく かと懐 めくらめ あるめ今 おもひやる 三句おもひの字ある 字は二句去之也 おもへ 一年の かたる恋教付 てをるけれ
大津 水に 荻 一秋之 他乃事は いせの人は荻にてさる二一荻の類
わかるく八 荻の 荻の下 荻の 荻の文字 荻の類くるし 事之荻八分をあるり
荻に風二句去之 面白 おもしろく くれん 朽 一座ましくて
あるうとく おもしろく 千年は七句去之 くらう一座 一 生
おなて一 おもい えをましき 瘧 瘧病所之あるまし 一 に
瘧乃字をたるれと二句去之 おもしれれ 瘧みえれ 初も七句去之 初めよよれ
かりしまぶれ瘧の字は初 八所にも相は 瘧 瘧 一名をて 瘧病 車瘧 大名 一名々 商 賣の瘧 今 の

さるとうちよこ二丹程はなれ座を四度乃ち出てゐる氏座ゐ
よおまつてゐます　ゐてそう君ゐ但座席より斗り付ゐを出ゐてゐる
座ゐ上オビ　常　三服衣れうけ袖ゐ風常みごの胸ゐ
ゐるり　常　ゐるとゐ
ありとおび　男　一枯男ゐるり仏上　扎　三男仏面ゐ
面ゐときゐ　男　三男ゐ三代ゐ　扎　廊おんどうれ三代ゐるり
沖　三内　尾上　三名所も　尾　ゐ　岑ゐ尾ゐ字上乃ゐ三
名迄　尾上　字ゐ三百ゐるり岡内
為　奥ゐ　二奥乃字ゐ奥義座奥ゐ四の内ゐ内ゐ
面　奥ゐ　ゐるのくとゐんゐるゐ奥ゐ奥ゐるゐ　大原
七条　三月　大納言　四月上　起ゐ　表分ゐ岑ゐる
外月　所月　起　ゐ月ゐ三ゐ　起乃字
三斗　おほろ家　ゐ月ゐ　晩田　ゐ　折の字四斗
ろくし　ゐ

ゐるとゐ
おるゐ　三面　打　一拝　狼　狼　おぼろ　一条　一常
扶　ゐ　おろゐ　一拝　凡　おろゐ　四　多　三ゐ　霊
ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ
花　賢　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ
ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ
おそ　扎　四　条　四　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ
ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ
扇　四　お　車　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ
字　四　おそ　一ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ
大　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ

三 男山(ヲトコヤマ) 非祇にあらず石清水にあらず 恋衣(コヒゴロモ) 一なましねおもと娘
付てくるしかくしきと 一うらうらと二句去る之
能(ノウ) 一能乃皮く手で守るれ 一能也能返 車 一は車上水車荘車
能装束等乃うち今一坐上三也 一坐四おもに荼るる乃
香車小車花車海老 草花 花の草也庵所く花也 墨る(クモル)
四乃面之面と娘なり 草花の乃うつに奴えて候
一月の後乃上一席也奇なり一憂墨雲衣 雲 字を之うへくとうとても
本へ付ても花草墨雲須耳おもに二句去る 同名品は二句去あり
雲井 垣 雲井拙之雲 雲井 大内乃事也 宮中 雲井
の之人同名之 天原同意あり
宮乃事を云海へ 草刈(クサカリ) 人倫之草 草刈 一草を刈 一般雲に
宮中天原同意之 によ二句去之 草刈 八面と嫌ふ
草刈 あ二句去く 蘭草(ゲイ) 一草花の白く草花宮さ二水辺物
今へ草刈うりおも海なり 草花 菴(イホ) 陸堺よりく座さう次さ草

の枕ことのく 草菴 一ゐとて草庵 のうち枕うへ拙よ水辺を草よ
おもと娘なり 庵の之へかしを 枕を枕うへ拙なり
草花原 野よ 草花み 荻荻落花花荻蘭樺小草枯荻
ふ路 野に嫌 つまらくへ去菖蒲不可 村同之
之叢八 叢(クサムラ) 草の字村也 村草 草也村くへ村の字
ゐ落 字より二句去く 草乃字三句をあり 草丹
出くへの手絡 斧(ヲノ) 草 癖(カケ) 草葉うへ拙よ嫌也草花の字二八三句去く 草奴子
三句去く 除くるさへてせとうもうく草よ不嫌
本の草花草行の 蘭(ハ) くさうへくとしと云ふりく 一ゐあの六くさ
草草ものいづれとも三句去 草よ さくへわを
に 経八三句去 九字(ツサカル) 八草枯 られ程よ枯らおもり 水鶏(クヰナ) 二ある
名草不嫌 宮ら嫌へ八秋なり ゐ之
真之 沓(クツ) 二水衣まれる沓ーさうとも之
五分の之 をび肺牛二句去く 団也名と虫 名竹とく付て
六義よ拠好之



これ行乃ふくろう和名抄に本ニ云ふ梟一ふくろう和名抄に梟ハ不孝鳥ト云ふ
暮三句ともに夕の字の外二句ともに夜の字歟
の字若しくは外の二句ともに夕の字ありて二句ともに夜の字ありかきそへ
ものゝ字ハ如何やうにかけても字義相違ハ下ゟ上へ返して読ミ字ハ
二句ともに夜の字ありかきそへ
蜘手 蜘生れ蜘の字ハ下ゟ上へ返して読ミ字ハ
を学ぶ初心の書ゆゑ七句ともに蜘の一蜘の一
ぶゑ下ゟ上へ返して読ミ字ハ宣下ニ三句 蛛 蜘ハ俗字 雲ハ雲ハ俗字
下知宣下ニ三句ともに蜘の一蜘の一 雲ハ雲ハ俗字
ぐもと読ミ字ハ 又くもの巣 梁ハ俗字 杉葉 杉ハ俗字
ともに蜘の一蜘の一 又くもの巣 梁ハ俗字 杉葉 杉ハ俗字
ゟ口 四吸呑嗌二句ともに輩 釘 一目釘一
の口々ゟ下の口ハ二句ともに輩 釘 一目釘一
打ぬき 紐ハ俗字 菜ハ俗字

串蛸 蛸生れ 串柿 柿ハ俗字
四 雲ハ俗字 多ハ俗字 串柿 柿ハ俗字
未ハ俗字 秩一甲ハ俗字 朽木 朽ハ俗字
生れ 國ハ俗字 觀ハ俗字 舞人 舞ハ俗字
功徳 功ハ俗字 公家 公ハ俗字 鯨 鯨ハ俗字
三年 年ハ俗字 陸 陸ハ俗字 癊 癊ハ俗字
義 義ハ俗字 雲ハ雲ハ俗字 鞍 鞍ハ俗字

やく一葉 人のこゝろのたね一秋くゝる くどく 彩之伝
旧葉くはし 倫 みりろ一 句余之
位一文所一名一拘乃 黒四大四七句去之 宅雑之穴出八方云穴
むくろぬくろぬ一 もとゝ子は三句去之 蛇 完ゝ入八秋之蛇打
さ 姪 閻一所くしハ句ニより 第外ゝ 字付て去之 くち
非非ゝ尺嘉お 多ビレ 第乃字外め
び句母 口面去姪戸 くれめ一すゝひゝさとへおきさ
口おとゝ二句去く り二句所りあり 第乃
戸母 第姪三 句去ん くびきれ 足同 栗一かえくり 孔雀 付雀
てふ くゝげ一系之 生起之くゝ 去之 ゑ之めぐく一 具足 佛の三々足一
昔之 あ桶れ おゝ生起ゝ 道三具足さる去
物あくくれて 人ゝ拘きてゝす えゝぐゝゝ 鰍ゝ 形昔
付句姪之下陀きゝゝゝを 本文

新宮付て ゝゝしくゝ付 波乃字 云ゝ入て三 中ゝゑ
や
ヤヘブキ 款冬 一山吹款冬夜一式 宇款の字付て不若 やとれ ちりき 七句去之 ヤヨヒヤヨヒ 弥生 山名 所
くり ゝゝ付 宿 二やとり二ゆく三十八宿辰宿の起去毛二式見之 宿さし一ゆくれぜり前と姪月と家と句あゝり毛句之 宿乃
字 五厩七句去宿やとり 家根五句去家ゝ三句去 ヤ 簗 一とし おう 云ゝ入て三 柳
ゝ浦ゑとの起ゝ入上 ヤナギダル 柳樽 柳ゝ浦楊柳 釼者柳下恵柳営柳文塾上 柳一夫柳一女秋色二
ゝゝ四揚枝付句姪 起之北枝拘り 柳れお八ゑ所 あり 柳箱楊柳銀杏柳
柳ゝ 宅とさそ ヨモギ 去之柳 ちゝ 縄之 山 トビ 姫 山起之非紙ゝ 山 ガツ 賤 ゑれ
母何くゝ山式字ゝ ヤドドト 住人 山ゝ二句去之 今ゝ三句 山とし紙同か
三句去人倫あり 去山款人起ゝ何く付 山くすゝら 腫乃 云之

人倫に只まぬ人おかとの人に六 休 三休
大に揺て彼家れ松 続きなり 足一 やよ 二やよ同家
やうと云詞 三ならりてみとやく 山橋 葉之 薮 二ヶ人みわ
さまざまのれも おとのれなり 難之 に新銭
猶外も 山窓 旧秘 よよりて所所に
新銭 猶之 二句去三句去なり

松ど杢 五句去ん公とまつと 松風 二ぜうの一人此の句 松風雨
かくしてか二句去之 松風 きれも三所同之 松
家にも句隔 松風乃通雨 落之 松乃岜 ひくまは風情なり 二句去り
物に二句去 雑之こそのみ縁 松の苑 初音之此花松尊
の縁 ここもわるまは遊 松に二句去なり
松嶋 松浦 松に 松山 末の松 去所の有坂
すみ 二句去ん一人物すす 松に五句去ん人物も 松嶋

山類之 松乃門 所所に一人物に云門に 松直 所松也
みる之 松乃みる所とうとく植物之 松も王
松 離 まさえうき人物の 人形乃松 緑よ去 松所 松 膠
木 二句去りし 木 非松杷
非松松 松乃葉燒も 一人物之炉 休所 松むし
並八松杷之 蘿 松葉同前
まうくきよ 松 松子松乃実 一 蘿 青露又六 詩 無字三
為之非松杷 有 うくりのし 為所す空 とされぬ
こあい 去一つ歩あい 一 梯 う人物は土佐屋 一 本の字と縁之人物之 窓
秋もの字可割 の字能とき二句去 枝 去来と云 八能松之
よ戸 二句去 正木乃かづら 木は字に二句去之 草か 鞠
ふそく 無くまりもと 一 枕 香丸とがたのまとり
以上体へ場なり 木と云来と云々 三

らふ　袈裟（ケサ）衣一衣指之尺裁之（ケダモノ）獣に　抽二句去之抽三去て
三句去之　けさ衣ハ切みるも　八付てもよろしき
きよしと　けさ二句去も　文の字八斗おるへし之　字へ下けの句去へ
一氷乃紙衣ハはるき
又し一去刀おと嫌之

古（フルサト）里　旅に去所一句去嫌乃古里に都　面と嫌之内古里
て里ありて今一五句去四六句　三句去ら切へて
去へし　皇居の古里は初尾京ちし面と嫌月に初折おれ
あるいは乃古里まもち若皇居は古郷と卩八奈良志なと嫌
吉野（クハウ）皇（キョ）居は古（フルサト）里色てあるき初と去（タビ）
の折之　皇居に古里折をきら嫌之　旅（タビノ）乃故（フルサト）郷に　去るれ初去れ
その都の折（フルサト）（三句去之）旅（タビノ）故（フルサト）郷八面八句去りを
古郷五いみし　むかしハ二句去りても
去もくるけ
ハよくなもあり

藤（フヂ）一句去他ハ春ろ　冬（フユ）枯（ガレ）乃野（ヤ）山（バ）に（抽おつ三）越嫌之　紅（モミヂ）に
紙の内に一面とらて
一旅に一文字に一ろん一玉章も四内之廻文
文云文者文武楽文文庫は折まて四匹　恋（コイ）文（フミ）一色て君ろれ
あるは仕去て了おと嫌まなの乃文の言ふると同わるる句なし八面を
嫌文月に文七句去之　色乃紙水もさつかふ絶それも星に文面文
月と云るおしい文字は文に成て四乃内之文に筆（フデ）墨硯不打付
絵（ヱ）筆（フデ）墨絵八付そろうしうしも年号人れ久かのぶん此字は
おる文字れ文にまるるひおや　付それも
蒸（フミ）絵を文かとせをろし　かつを　文書乃文に　筆子付
かつす字れ寒侍尺去籍書を物面とさつな　てらし
ありし文擬乃文　玉章八ころわず　筆（フデ）一ひの一色れ
ぬと三ろおと嫌之旅行面れ文るもし　紙　紙る乃紙墨
去て字れ文八字去れ紙あり　浮（ウキ）世（ヨ）浅き世は　一去まて　かきまう之山之宮之谷
之文字二句去之

ふじ哉　雪七句去之風体三句去之藤と云　藤乃字（ジ）　字八面を嫌候乃字三句去あり

八花乃ふじなみ　雪二句去候、ふへ三句去がへ　富士（フジ）　山類之ふじ川にも嫌ふ事を

淀野　ふじ掛よありす　船　五句去之川舟類ふなかへぶし淀の川舟へ嫌之淀みなくふじぶき之木乃

初のへ嫌ふよ　淀し舟　類ふ安りす　後舟へ嫌之　左遷舟（サスラヘ）　幸舟　せきさ舟

舟寄浮　遊あり　冬月　去之所　よ妻　林鹿（フモト）二名所一山ハ十七句持りあり　舟よ　舟異　幸舟

山三句　吹此字（フク）三句　冬ぶ冬　五句去之　衾（フスマ）　冬之衣分之事あり　を淀て八秋く

衾（フスマ）　一花のふじなみ　衾衣去と二ふとん夜淀子一　古衾（フルドフスマ）　ふすまと衣裳傷之　去付く事八無、ふじ乃

ふし　長分之　ふしぎ事　冬之水ふし之生類よ折紙　ふし栄り面をきらし嫌　更乃字（フクル）

二族文一長分之　文よ淵　二句去あり　糖此ゐるるかも二句　笛（フエ）　一え家之　鹿笛あと

秋文後文又三　之紙（シヤウ）単（シヤウ）　二道（フタミチ）　去之　ふしり　ふしりふし　ふしふし　去

天八面を嫌之　二ん　ふま行人偏よ　よわりす　之　史ふし人偏之　含（フクム）　二ふく　振（フル）　舞（マヒ）　去之　かる

之　まひ　食（ケウ）宴（ヨウ）　ありき　折を　嫌之　歩（ブ）　去之　一人偏之人足あと　阜（フ）　一名所一　明の間

一　第此図　糞（フン）　たくこ大便人偏之　此基此声一　深

答りー　袋（フクロ）　生ゐ類よかりて三　一袋かくろ三　たへと袋よ　ふること

言此字付て之吉　ふさぐる二

古去ともふ　ふさぐる二　嚢（フクロ）三　補陀楽（フダラク）

尺哉　扶持かた　一条に三句去　深キ三句去　舟長　舟路おなじく嫌ふ人倫也

世三　ふところ　一句ふところ二　襖　人倫に二句去　人倫

紛伏　同　懐中一　之植物嫌ふ三

山ふし　おとな　服　一具服一　葉に一葉に　風呂　居所之内に二句

普請　一家に造作又ちかへし川普請　去之内好三句去

ろ

古柄　ホフリ家に造作八二句ちかへし　一名之名所は木柄の事一木に二句去之

を嫌　柄と云字なれば八三句去之人めかなくて一面

熟の字之二句去　こひ　二恋慕一恋は五句去しかるて恋の字

風情に三句去あり　今一句　数乃恋も四句ちらさし　恋

二句より五句つゞく　恋れし山　山也山おなじ所の　楠　一名なし

そふれて八三句去之　山はれ山の名なり　一句すくも

三れ四之末乃字末れ二　楓　九月乃末々

字三句去楢の秋一　之柱物二二句　末の世

うく人、物之色之源氏物語に　末の葉　うく人物之　八二句

二句面に七句去さて　冬之衣類之　九重　一九重之源氏

さし今一都　詞　二ことなれことぞ八道ーの字は一九重乃

に面を嫌　三句去之詞又ことの乃面を嫌句源氏に葉此字

四之かくはことよひてとむ川　氷　一となれつらく此る也月氷泪

との花八言此字之五句去有　の氷様に一、水氷河上凍の　室氷此

わさうもそうひよりひに　氷解　溶かし其去之此氷冬之なり

一面を嫌ふ乃七句去之　水解　氷てかりざるも冬之

わ保　初雁　氷てん冬やく雅之五乃ちらえ冬を嫌ふ

冬よりみぬ氷室　詠の衣めし八七句去之ひ　ひに　おぼ　室氷様も七句去

や激ると云字わよ　連　大ふれんの氷之　ハク　薄氷

二句去ひ冬へ嫌之　五かちらし之尺哉　とよむで

とく　氷乃とく　初春五ツ時也　心持去　心は秋といふ地二二句去之こゝろ　秋句三より去る也　去て

こゝろ　調云頭てふ中に去るはやくよみつけたるこゝろを二句

去之兼云私云縦云くりことに行言たへむきと云句去

よそへてそれとゝろまゝさるにあるしてよみ　詞とまりに

云れ字をさくりて言ふてふさ三句去り　五只ハ二句

去之　はとおとはと時三字句にわりて二句去之　雑恋

詞は月来言はふろも三句去之二夜は居所　心乃闇　やみ　雑恋

句は月雑之雑恋か夫妻は也こゝろ乃友　人倫之句にわり人倫は

見てて面乃月をめてゝるゝ　夜とて　去る事也

雑恋　衣と衣　五句去之　衣川　ころも　かは　衣は衰衣三句衣は棚　苔

地　上ら　苔れ庵うゝ　地之衰くとれは　苔　こけ

地之居所之　苔莚　こけむしろ　衣は衣二五句衣去之　名所之衣二五句衣去之　冬とも

なき　所之　居所

苔乃衣　こけ　ころも　雑恋あは恋懐之　心乃あかへ　心の後もあかへ心は三句去之　てゝる

人乃三句はちの三句去之　心は二句去之　去て

心の字三句去之これまし　ね

面をと始めのとゆまへとあを始　碁　ご　一句之一

物　詞　こ　に簾　す　ふたりくり三句去之　此数　こし　居所之くら

詞にと云字付てかの　越　こし　名所は二句去之

去年　こぞ　一会は一とせはんきの居とね二句去之今を

きまりふと今とこ　きゝよれんまことし　包て　まてんれんとふた今を

云字去之　子　五釈は二句始歌子と始まて八恋は之　子ふ

　　杭子子卯は作の子利は子五の内之一

児　こ　七句去之作の子の乃　子は小　子性子扇子ば

子八付句をは去る也　子を付てふ若　小鷹　たか　れ

鷭（カモ）鴨（カモ）水鳥の（総）名 喜多川こさめ（小乃字）二百五十 琴（ことをひくこと）今一 琴（コト）引（ビキ）琵琶（ビワ）面（ヅラ）と（ほめ）きんとう

松

えびす 一説一恵比寿神乃略名 人偶（ニンギョウ）二百五十 居所（イドコロ）不（ず）知（シレ）人の名乃永福（エイフク）を（ほめ）て（いう）名 えびす人偶（ニンギョウ）二百五十 又名の夷則八二百五十 南蛮八非人偶（ニンギョウ）二百五十 えびすめ（おどけ）たる（ほめ）くし（へ）をもつ（ほめ）八七百五十 おかめ（ひょっとこ）二百五十 えびす一（ひと）つ（ほめ）二百五十 えびす講（コウ）二百五十 不（ず）招（マネカ）得乃体（ていたらく）

寺（テラ）三内乃一 百五十 尺寺（シャクテラ）二百五十 寺（テラ）子（コ）屋（ヤ）二百五十 寺（テラ）社（ジャ）奉行（ブギョウ）百五十 寺（テラ）小屋（コヤ）百五十 寺（テラ）内（ナイ）乃（ほめ）詞（コトバ）

てんじん 一説一菅原道真公乃神号 天満宮（テンマングウ）二百五十 天満（テンマ）大自在天神（ダイジザイテンジン）二百五十 天神（テンジン）様（サマ）二百五十 天神（テンジン）講（コウ）二百五十 天神（テンジン）祭（マツリ）二百五十 天神（テンジン）髪（カミ）百五十 天神（テンジン）机（ツクエ）百五十 天神（テンジン）机（ツクエ）乃（ほめ）詞（コトバ）

てんぐ 一説一生れ非（ず）紙（カミ）二百五十 魔術（マジュツ）を（ほめ）て（いう）名 天狗（テング）一（ひと）つ（ほめ）二百五十 天井（テンジョウ）百五十 天水桶（テンスイおけ）百五十 天人（テンニン）二百五十 天子（テンシ）様（サマ）二百五十 天子（テンシ）様（サマ）乃（ほめ）詞（コトバ）

てんじく 一説一天竺（テンジク）乃略名 天竺（テンジク）木綿（モメン）百五十 天竺（テンジク）人形（ニンギョウ）百五十 天竺（テンジク）浪人（ロウニン）百五十 天竺（テンジク）乃（ほめ）詞（コトバ）

てんぢく 一説一天竺（テンジク）乃略名 天竺（テンジク）木綿（モメン）百五十 天竺（テンジク）人形（ニンギョウ）百五十 天竺（テンジク）浪人（ロウニン）百五十 天竺（テンジク）乃（ほめ）詞（コトバ）

朝廷（テイ）一説一朝家（チョウカ）乃尊称（ソンショウ）百五十 朝廷（テイ）乃（ほめ）詞（コトバ）

帝（テイ）王（オウ）天子（テンシ）乃（ほめ）詞（コトバ）

天人（テンニン）二百五十 天人（テンニン）乃（ほめ）詞（コトバ）

典薬（テンヤク）乃（ほめ）詞（コトバ）

此人
傍ニ天目（テンモク）一茶碗をいふ　手まり　たまてまり二句去之　手まりと云ふ事なり　手まり
うつゝ人傍之　照（テル）月日照る二世　照らす事を一世と云　寺ニ　塔の方ニ庫裏　眠蔵付て可然
てんりん一ツてらりちり　ふるべから寺　天守（テンシュ）一居所之城ニ　折を嫌なり　手に持　松と六不付
手車（テグルマ）一まわせ句去ル　ふむ六八五句嫌之　調布（テヅクリ）ニ七句　衣ニ面也　調子（テウシ）一謡ひ　着付て可然　純子（ドンス）
盃酒おもと嫌ひさけ　ニ面を嫌なり　天人（テンニン）一此人傍天女　羽衣又うた　天道　せいりん　ふちニ面をさし合
天下　ちて天下　云事也　鉄炮（テツハウ）石火矢大筒なと　二句去ル面嫌　てつほうおもと嫌　火ノリ二句去之

あ

雨　二うつり三此内之　あま面を嫌さへる　あま　ニさめ二ふるまと　ふる七句去之　松風乃雨

万葉ニ我川玉乃藻の渚のいふ　此浦の文
二海辺ニ二句去ルとも雨あまの面嫌　ふりふり　七句去之　五月雨我衣の　あま乃衣ハ雨ニ二句
去へ雨ニ降物之　雨水（アマミヅ）　涙袖へつきも　雨衣（アマギヌ）は水也
天雨之海柚ニ非　雨霜（アメシモ）　霜雪（ユキ）　霰（アラレ）　二句去之　雨傘之尺
雨之ふ之雨かの　嵐　三山嵐山のての名所　面を嫌　嵐山風祈
水辺云ふり此　あらし松の内の葉乃　ふ付て可然　嵐乃
月　一夜乃月一ふ此字入ぬ　名月　月の月　今夕はふ　あけ　折ふし　秋の　此字
名は明　秋さゆる　一かはらうハ秋の月　あかつき　月二其時と二其暁此
このふ二　秋さゆる　時雨ふる　暁（アカツキ）　折ふし又春之ソ暁
ちて勝乃出世　秋風一秋の風一あきふきハ一秋風　ニ八ふ秋の風と二八の一　県召（アガタメシ）
花下出ふ可　ふ
正月十　秋乃夜　ふりさんかうそ拍　其折ニ時き折ふ宵　寝覚　三回を去へ
一日也　此外なり

旨 ムラシ 一義そへつゝ一義おもて一義解あて一義添て細
れ義 おもき義各ゝりくれりらあてゝ新なり 細
古 一義そへおもてなりれおもて新なり細代事ゝ
代 れ一細代ゝ新ゝ怒細ノなゝ面と新月代前代おと新編ニ百ゝ
細代の床 ロノ 所ゝ新 明石 あるゝ赤うゝ面を新ゝの字おゝ
ゝ石岡 ゝおゝき 扶玄衣 ヒタ まゝ柳 うゝ
ゝおゝ 秋乃田ゝ 舶 ゝゝ新なゝ作り新ゝ新ゝ新ゝ
地ゝ 舶 ゝまとりてまゝゝうゝ新ゝおとりゝて三角
扇 一かゝり一せんをゝ作りて三角ゝ三ゝもゝ図面ゝ新なり
扇ゝ所おゝもゝ春雨の名のゝりゝめゝおゝ編師ゝゝと
栗おそべ 弥 ゝ 新ゝもゝ消ゝゝゝ新ゝ
ゝ芳 新ゝ消芳
ゝゝ新ゝ

三百ゝゝ数 檀 新ゝ二百 海士小舟 初潮 ゝゝ
三百ゝゝ 玄良日おゝ
新ゝ月 月とゝゝ 新ゝ
新ゝ月 月ゝ日ゝ新ゝ二百ゝ

新宅 秋 宅 新ゝ
ゝ 秋乃 妹 五百 義と 潤 きゆると 高浦 ゝ
ゝ 秋乃 天川 ゝ 西茶 茶 系図里日新 新
秋 ゝ 亜坂 ゝ 猿 ゝ

燈乃涼しさ　秋の景向面にもらす月かげ

秋之四　つくつくほうし　聞よひもすがら　二百廿ばかり

もりく　おくそく　海士　人数　名前　知行　百俵

芸會　正月七日　秋乃文　秋なり　汗　一反銀乃統こそ

くわつのまのおく縄　綯そこ　あくそ乃　月見　十月是

細　一たば一ぞく　商人　八兄　一人徳　現人非　若

姉　一人徳　跑　具一　おやれ　二百ばかり

尼一尼ぞく　尼一尼ぐ乃一阿弥陀　秋更　ゆやー　二ぞく

あくそ乃　裏表　一ぞくそ　あちあ花　一株通　ふもと

ゆ　翁乃あり　つくび　一日乃市　小豆俵　青　みどり

庵室　也　也述　懐抱　追慕

二百ばかり　あくそ　あくそ　二百ばかり　阿闍梨　尺ぞく

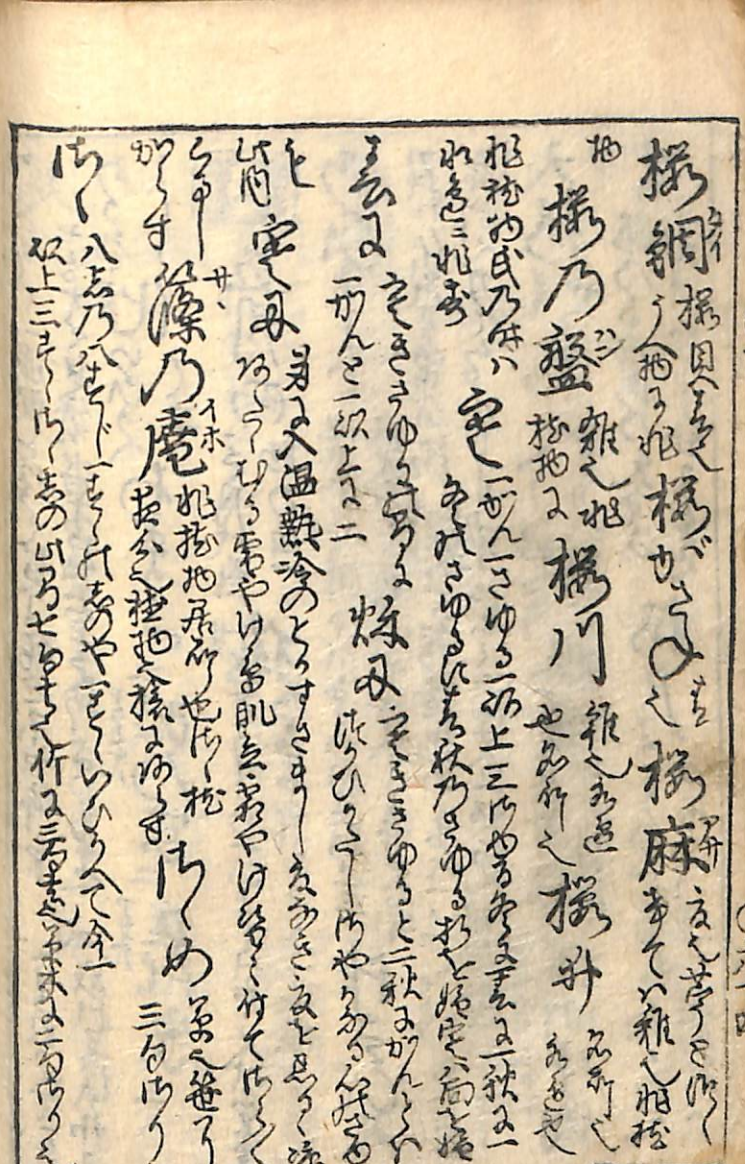
一段　衰三あれ　むくな　赤

糸毛の染三匁を定二分り一斤一朱の一朋僕よ代おおと
紅紫二匁を定宅染一 鞍 乃火を付 僕よ代おおと
きうう乃ふうう乃ふ 面とおよ 荒れ女五 あやう世一
物ぐし乃ふうう乃ふ 面とおよ 荒れ女五 あやう世一
乃ふう油 一五匁 當も 白三匁 節会 ちう
手一油 由一 當も 白三匁 節会 ちう
あやけう一五匁や 天津よ下二匁 おぐう 魚 加
あやけう一五匁や 天津よ下二匁 おぐう 魚 加
を糖 一五匁 茶屋 岡 加
を糖 一五匁 茶屋 岡 加
比黄玄付てう乃ふ あやれ女二 茶屋 岡 加
比黄玄付てう乃ふ あやれ女二 茶屋 岡 加
を 鰯 み てれくき 納 女き 手ちう 加
を 鰯 み てれくき 納 女き 手ちう 加
二 七匁ちう 月代 ちう 加
二 七匁ちう 月代 ちう 加
あんと一五匁ちう 京いちう 加 白ちや
あんと一五匁ちう 京いちう 加 白ちや

足一そく 一脇面とおよ 足の脇と不付脚 字
七匁ちう 足袋 賀茂二匁ちう 加 ちう 足 成代 足代 加
あうを乃ふ 化 いひうく あまう 二 改乃字 二 集代 字 三

五月雨 三 月代 魚 猪 すし ら ひよう 午申 人代 名 末
物乃名一 猪 すし ら ひよう 午申 人代 名 末
ちひしゃ 三 物 ひび 朴 さびよの 内 三 物 三
ちひしゃ 三 物 ひび 朴 さびよの 内 三 物 三
刀 物 ひれ さびよ ひび 鈷 あとうくあ 春 くあ 春 くあ
刀 物 ひれ さびよ ひび 鈷 あとうくあ 春 くあ 春 くあ
名 別 仕 くう 櫻 一名乃 猫 花の 春 一 仕 家 採 所
名 別 仕 くう 櫻 一名乃 猫 花の 春 一 仕 家 採 所
大 採 ます 採人 くう 人 猫 採 向 四 三 ちう 猫 採 町 中 納
大 採 ます 採人 くう 人 猫 採 向 四 三 ちう 猫 採 町 中 納
言 採乃 物 採乃 文 の 名 別 仕 くう 三 ちう 採 子 参 猫 採 戸 居 採
言 採乃 物 採乃 文 の 名 別 仕 くう 三 ちう 採 子 参 猫 採 戸 居 採

梯網 梯員へまとひ拘る袖 梯かさみ 梯麻 苧うみ苧ぐり 袖括 梯乃盤 雑こま袖 梯川 雑こま道 袖括る 梯井 名所こま道 袖括る氏乃体ハ 宅 一かん一さゆる二秋上三月ゆるまこまこまこま二秋ゆる一 ゐれる三ゐまこまこまこま 宅 一かん一さゆる二秋上三月ゆるまこまこまこま二秋ゆる一 ゐれる三ゐまこまこまこま



ちくら 一尺まこまこま三百路 あのすけ竹のきくらを拘わる 竹よ付 催馬楽乃 葵草 末つゝ拘よ 宮殿 竹よ付よ袖と里共 名所こま道 人倫よ添うます 佐保姫乃衣 雑衣袖よ 袖乃竹よ 三百 さおさ男鹿 小松 小松垂乃小のサ 字付名と袖 小さく 三百 双林寺 つゝ字よれ 盃乃ひろ 秋七月よ成 酒三共拘し 盛 五位塔 三百所一ちこせ袖 五位塔まこまこまこま白百井 ゐ袖こまこまこまこま雑こま 坂 三百所一ちこせ袖 山名所こま袖こまこま雑こま 老ち坂 雑こま名所 よの袖こまこま 梯養老 川の名 五岡 五岡おこま三百まこま正月 ゐ袖乃字三八まこま 早苗 こま

う人抱之 沢(サハ)二名所又一沢山ハ沢又三句去之 さ山へまへ山のへ乃
非なる也 山乃字同字非山非れ也又 字付句と嫌ふし
さく浪や大津乃京 去 去之 さく秋さゝれ萩さゝ桑 非又二句去り
さ枝のさゝみ なるかぬ 付て同字 指乃字 なるべく二句去 戸月日堀桑
酒 一去也一字酒醉 去也 五月又 去也二句去之 同深 さむらひ子
皆基酒 非内二 同字多く也之 う
同字弾る事ハ右ハいかにも花アラマル 任他 去此字 さう此字 てとほち ハ枝乃字
同字妻乃時也又国二句去之 又二句去
也弾と字又二句去之 残(サ)菊(キク)乃裏(エン) 十月 五月 さゝれ 二句去 去れ桜れ
事此字付る字ハ是 好色さゝれ見ゝれ
あるなし 鈴され
去され 也ゃ 去く さゝ浪神 非燃之 樵(サ)数 又 去 二句去之 非去之

さゞなみ三 棹(サヲ)竿(サホ) 戸ノ又 さゝ舟四 さゝ宮 一去 又一抱 さゝら 三
又又 以上三 さゝげぶ二 さゝ竹二 一去非二 句去之 さゞく小ひく さゝれ 二又 され 乃非之 四
さか しき 二 さまさけ 又一去 猿(サル)一 さゝ舟さゝひれ
非坂 玄 三句去之 襖(サム)遮(シロ)又 襖衣 襖子 非此字 去ヶ 去 乃襖 三句去 痃(?)又 五百同 らゝわ
さとなり さゝ猿(ヲ)一去も くる さゝ宿 一様又二句 さる ると
あり さゝ 二句去 あり さゝ 一 送 以上四 之
里又 その一里二里 さゝげし母 小さむ 雑(サウ)兵(ヒヤウ) 一人偏之
つまて ゞ ゝ わとね 鞍 之 非
偏人 産(サン) 誕生一子 さゝ去さ 一たそれと 想(サウ)思(フ) 簾(レン)
又二句去

手乃字之
書かくに　雑乃字四　在郷サイゴウ　一里に二字サン　書有　三味サミ　書之　文サン　三字書之　さ
さゆり二字　侍サムライ一人　遣之　さへ二字書之　坂サカよ　れおきへ付てかへす　ざら
二　様サマ人に上よ云之也一みる紙　皿サラ一杯乃皿　塊サカヒ乃字二字所八
さはく云わの紙二字書之　ひぎの皿　此所あり
サンミル　定之字四　崎サキ二字　所二　柿サカキと汁、非紙よ用ゆとも　ノ柿くるい非紙之書之
き
蔡キリクス一字よ書けせて虫蝗蛘ウやにらくて　きちよ一所よ　きを付く
今二字ありくをうよ飛せうな之非紙之
くと一おゝんあう　寄乃字　捷ヌえ用捷入桐よわきキシ　岸二
とハ不可　姫之皮附なる成あり
名所一　碪キヌタ一　様衣とろ衣打とう二衣れ二字　書之　居所キョショ　ござく　三字書之
但岸一　きぬたを用よ二字を枝付てかへす

きぬく　一書く拾分之衣おのよ此を衣の字に二字書之衣紙二字かくき
二字めよへ用紙字之別乃字書かくし七字書之書かく在
二字書之花のきぬく
全紙紙字よ以上三　木こり　木乃字二字書　本と本は三字書之　木とて八　一方杉紙ゆう　ノを八二字書之
木とてる　切としても　菘なよ用ゆす　木母燒木キキ　菘の字書之　キ　几帳よ
本付てキリ　木宮　本よ二字書之　紙よ二字書之
もち若　本あ紙紙ら紙よ　清水キヨミヅ　ら紙之紙の辺よ清水寺も
キヨ三　清凡寺テラ　清凡ら実　日所一　あり
清凡寺　れ之　雉キジ一きでき之一野縁之一様之紙之之　桐キリ一秋之
一氏あよ相乃キ　るあるの字へてハまよ書之　梧桐
宗今一て書之　狐キツネ一のひくて一きろの川　君キミ人偏之書之大君紙人偏よ紙
ミ人も名も君　付てら書ら字別よ書之　書之大名ら帝ノ紙書之
と云人偏之書よ御れ　キタ二ツリ　北条　加茂之名月キリ　菊二人代のあるゝ名衣衣よ
下よ四ツ付之　きてらちおくかりて今

菊乃きせ綿　霧かくく　除地之水乃遣之　霧乃まがき　深地之
綿秋く　二寿乃二寿此隆一　霧乃まがき　除地之
飛竹二百逆起而と姫君之　客衣　年さ付事一恵之それ年あくて
衣寄ゑ雨のぬひ名地之　きく事ある にさく根をみて夏の
きく乃ハきぬかけ　衣砧十二月也　きく原　納涼也　姫　曲水宴三月三日　祇
付て衣寄
ヨンノエ　寄會月　六　キツカウデン　乞巧奠七夕　さえ客　きゃうきへきをきくきさ　乃哉二百去降き浅き
おきぬ手ハ　吟一ぎん　客衣三百　キヤウニン　行人尺中　一　給仕一　乱麻
付て衣寄く　そゝく
二　来て留四　き乳ハ一陰さ　付る姫　炷三去　炷ゑ一　菊乃水　鶏
みすれし　一　去乃色ゑ流の客　去せ奴　周之　騎　馬一る不付　銀

あろうね一　経一　絲一あ乃き　衣ゑいろく　キミシン　君臣合　面と姫　ニる　ゐく一　二分　きくと詫ハ
おち合　キヨル　清三百　キウ　ゑりぐさ　ニ　きの乙さ
経之を之　客衣　ある付　キツ　喜悦一よろこぶ　をきし婦く
キケン　機嫌一気ゑ　キシヤウ　起請一ちかひ文一　ギヨンヱ　祇園會山　あれ山鉾の月
結合ゑ之　起き台ゑ之　母乃三沢地
キツ　渡涸ゑ　桜みたおどりて　去乃君ゑ　イモト　妹妻伯白　キサニ　二きさき
ハ付そ不昔之　ホよ不て付　去し
二白　キヤウダイ　兄弟　人倫之兄弟　契約去地　キヤラ　伽羅一沈香
去之　わ乃系春着一る二　詩ひ手ろハおて帰へし　おせ
結白さ香　キヨ　清乃ゑよ　きくえ三百去乃人乃字同おき　キヌノニワリ
三る分り　砧系　秋あり
夕暮一夕月夜一夕陽暮二る　キヤウハクホ
肉之　朝暮晩之　夕暮之面と姫　夕暮とゑゑ　ゐ衣の　付て八

なはゆく年なりゆく春なり行の字三句まれ　ゆきさく
字ハ二句去之弟乃向後嫌ありけり二百韻一　ゆくよ　ゆきさう人
字ハ二　行末　二句去三ゆく　指　二ゆのと　明衣　一帷　ゆかた
る去　一ゆり　遺言　一遺戒遺　遠く句去七句　きる　遠き　二　ゆ
む一　ゆらり　一所　ゆらりと　三　遠経一　ゆきさ　宿　二ゆるき面と相
ゆらり　遊一　幽霊　一亡者之か　きの二句去　譲　三　湯　一　条湯　湯　立　温泉一　ゆ　ゆく
き　来　一夜ハ付て不若　ゆふべ　ゆくえなき　ゆくよ　夢　後
付て不若とよ　ゆるさぬ一　ゆかし　一名　一物の　ゆかりゆく　ゆふ　一非　結　由
ま面と相　結ぶれ　一物のゆえ　ゆるさぬのゆえ　結　聲よ
一きてゆく　ゆくさき　や下常わ　ゆづり　槌　一ゆづり　ゆり　百合　二衣　あり
嶋　食　牀　布ハ二句去り

硫黄　一　硫黄ハ　一ゆらりの根　柚　一　花ハ　冬　実ハ　秋　ゆべし　油　一　煙　一　家
ハ二句去　ともに嫌なし　一　雑く　柚の木　雑あり　ゆら
二句去之　まわ　行　二句去之　ゆきてける幸　霞よ去　老人　一　旅人
と嫌なり　二句去之　ゆきてゆくとかわりて若　老人
名字よ　韮　二ラ　猪乃字　四　行　みゆる　二句
ハ二句　きりてきて

め

名神　メイシン　名所　メイショ　ニ　アラズ　いせと云てる神とらひと云まる
神と　ハ　非　いせの神　非との
非之
名所之　一　笑流　めくりの名所　和布　メ　大　雑　名所とく
二句　めく　五　メイホク　名乗乃　秋　ハ秋　名木乃　かるとなり
嫌之
同　四人　同　こそ　めり　三　かり　めくらといさ
人乃あるゆく　いよの　八之　かるあり　ニ　白らり

七月七日をいふ將もいふ 織女(シヨクヂヨ)まつる よりも あそびのこと
田夫野人も此まつりあり 織代之遠(ヱン)く 三ケの遠は三ケ寺
三冬(フユ)流き 三冬は冬三月をいふ 三義(ギ) 一はの忠乃
一名所は七台 天下 西を三ヶ所をいふ だりがたれ
ことに数多 都(ト)よ ねむの付 水神(ジン)水 三ヶ所之くみ三
て不吉
三門(モン) 二派 遊之 箕(キ) 水高一つ(テウ) 詩(シ)三るきこみとだつし
一三七本きを流(ル)く 今之とよ 義も本よ此よ出る 俳合許よ不付なとの
一百よ舟の乗せる之出 波乃形にとき 相之源流をはによ五原は流さ
所よ立 御(ミ)陵(リヤウ) 殿基 未(ミ)練(レン)ハ付て不吉 湖(コ)よ三百 玄之
せめり おとよ姫 初るれは付る也(にん)
ミヤ(カ)八 三韓(カン) 常 御(ミ)幸(ユキ)一初幸行 三(ミ)木(ヤキ)引(ヒク) 出 三井寺
頼めよ 流れ一

雅(シグレ)楽(ガク)三れは 三人一発三際(し)
羽を之 壬(ジン) 乱乃字四年 一作の三台(ミカ)とせもれ 三(ミ)ヽ
三つ之一 の年(ネン)一筵(エン)年一 眉(ビ) 同より
三(ミ)台(ダイ)之月よ 明星(ミヤウジヤウ) あかつき之星より 未(ミ)熟(ジユク)よ うきかれ 三絃(ゲン)
二句(ク)三と あとなし 不焼 絃(ゲン)之一
実(ミ) 名を求めたり 水無瀬(みなせ) 緑(ミドリ)乃字三
て三葉一
1 時雨(シグレ) 多くは秋の未より三冬よ三月を云也乃時雨は三百之時
日 の時雨川まで 時雨乃時の用る乃時雨あるの時 秋の多は名之同
此雨は冬也 塩(シホ)一やきしいか一焼(ヤキ)一京ん一枚之四枚一乃寸名
おが茅乃言か所ひ八面と陸之岸の字かるま 三(ミ)ツナ
の本が名か八二万き之陸の寸所以地所南と陸 生(シヤウ)家(ケ) 此人伝(でん)鹿(ロク)二
きかりう二元一伝之四鹿鳴鹿の人所 三之陸鹿世界 雑之 二ハ四
之鹿の所の三ツ成る之鍛と所る之 依る秋杉之慶 四の内あり

麻の角 麻毛の筆 麻枝 苧 麻葉 紫苑の麻似たるもの 麻の紐 結び
鄙之 此生れ 麻と云ふ ておる みるも 雛之 束 結 縁
秋 下のえ まとひ 袖 二石 妙 糸 在 山 枝 下 夜 下 枝 下 程 下 おもなり
之 下 八重の げ なりて八 分の 四 之 稲 葉 衣の 末 ぞ 皮 山 麦 草 など 三 五 四 文
下 二五 末の 身 ちそ八 二石 のりかり 下 草 下 常 ど なる 人 衣 う 一
下 紐 一 夜 なる 秋 下 常 此 夜 なる よ お もと 結 之 男 お 下 常 七夕
此 下 紐 の 下 紐 乃 関 とられ も 背 て 五 て 有 をりひ
まる 白 やう れ 有 名 くの 心 衣 に 春 待 人 をも ちら よ 人
あり まよ あし と なる そ 待 る の 之 意 之 春 を おもひ
結び 一 名 所 之 水 辺 て 二 石 にて 結 之 一 草 の 此 名 お 草 は 春 の
むすり 水 と 三 五 の おやすみ 無 てふ 山 秋 二石 心 草 に 春 の 人
おもと 結 之 出 母 小 草 と 母 子 草 結 之 春 の 民 字 母 子 草 意 二 兵
作 是 とんけて 子 春 西 と 結 あり 二 月 暦

結び車 之 意 しめ字 色 春 の 二石 去 一 夢 きよ 清 濁
ても 二石 の 之 むかし 同 お 名 あり
脱 よ お 合 縁 之 春 行 く め 折 冬 之 朝 よ 二石 去 春 の め よ 貝 二石
春 風 回 春 つる 八 三 分 夕 時 分 よ 八 きつ もと 去 之
と 結 三十 之 事 ろく 心 春 の し 宿 八 二石 まく いち 手 兵 の
道 結 之 民 の 内 之 波 面 と 結 出 春 まし 同 お 姿 結 名
宿 と 斗 八 日 お 此 風 之 方 庵 春 の お 由 結 者 の 手 七 分 去 春 か 生 く
名 ろ の 宿 細 よ 二石 所 拝 宮 春 ず れ 八 思 風 秋 風 二
二 名 同 母 よ わ き し か 又 子 思 居 結 結 一 山 秋 之 子 二 名 所 よ
辺 之 川 結 池 の 中 結 八 水 辺 之 池 山 民 の 深 淵 結 シ が
琉 球 乃 名 来 八 此 山 民 の 辺 よ 結 深 居 八 結 三 民 是 春 の 旅 民 之 越 ヤ ゴ 旅 之 記
旅 よ 三ム 白 尾 鷹 タカ 春 之 深 尾 ジャクヤク 芍薬 一 二 夜 之 花 清 水 一 秋 之 結 氏 を 結 八
ろり 手 の 結 ろ 同 お ひさ と 生 之 夜 之 せ く か

芝二あつよ 一名香一 おとね 二根 あやか おげき 三あまつらもくさよ 可付但俗名折くり
ぎんきう 一ものよ 汁 一腔和汁一雫 こしょう 一味あつらへ 飯 衣 けをまけよ 頓絶 一味あつらへ 飯 衣 掛て云 飯 衣 掛れ
ニュビ 筍 竜 一名ふくめ 者 一名 基 碁七白黒 双六名 死乃字 四
白黒 一病乃名 浄衣 衣 浄金 一名よ 黒 ごまかご
白黒 一病乃名 浄衣 衣 浄金 一名よ 黒 ごまかご
水をうり 白河 実 名 染 名 芝 分 十徳 乃名 衣 衣 衣
二滴 二あつよ 三 君 一あつ 一あつれバ 二根三 代 五個 代月
行の 師 匠 一人 参 燭 臺 一名 多 使つ 仲夫 仲 行灯 おり 霜 四 三 秋 こ
眉 黒 衣 月乃 黒 八 秋 り 見 黒 秋 り 唐 名 狸 こ 一 獣 こ 名 お 黒 来
名の 雨 墨 八 黒 よ 付 て 山 黒 黒 明 り 名 こ
狸 こ 一 獣 こ 名 お 黒 来
衣 衣 こ 黒 屋 敷 名 ふ 下 部 一人 使
白 名 乃 名 羽 生 八 おげき 三 おまつらもくさよ 出家
おも 名 城 一城 こ 名 よ 山 城 国 七白 居 障子 一名 外 こ 名 ろ
領 城 代 名 そ ろ 一 か 子 乃 障 名 ろ こ 一
白 黒 一 始 名 こ 波 一 名 ぐ 名 り 名 こ 今 一 綿 乃 如 飛 波 黒 雨 名 こ 名 よ 名 こ 名 お
城 四 二 乃 名 こ 波 会 名 こ 今 一 綿 乃 如 飛 波 黒 雨 名 こ 名 よ 名 こ 名 お
笑 乃 名 黒 こ 名 ト 代 字 二 乃 名 こ 名 よ 名 こ 名 お 里 根 名 よ
おろ 一 根 名 こ 名 こ

絵あり。菜 北松おろそれ くれまゝ地 右禅門 将北人 働よ 紫土
燵火 松 恵法 雨 林 越 面 今 桜乃 木 散 実鉄 塗 入
内 もう 者 一名 衣紋 つくろう 恥 一玉 び 勝 一玉 び
北人 働 国 珠 多 一人 逸 け 砕 一 舟 う 魚 り よ 一
ひと 今 月 二 同 神人 働 り
氷室 一夜 ふ 恵 非 山 れ 多 今 氷室 の 者 逸 よ 二
取 り 北 ま ま ま ひ 多 の 面 を 水 松 も 逸 北
松姫 朱 の 月 ぐ し 一 秋 怪 と 名 月 し 閑 よ 寄 村 て
こ う 一 一 夜 山 月 寄 逸 独 以 上 四 一 文 字 二 字 ま 独 と 逸 ま よ て 住 く ふ
着 ひ こ り 一 人 ぐ く 也 お ま こ ま て も 以 大 逸 月 以 り 北 う

公 働 よ 北 を 一 人 の 二 百 以 り 之 菜 の 独 活 仏 具 行 独 温
ひ 多 ま ひ こ ひ こ ろ と 付 て 多 者 こ と 逸 よ 云 ハ 三 句 も り 之
松 来
火 五 景 火 孤 火 行 例 を 拍 七 句 ま 之 う 句 も 五 乃 月 之 焼 こ う 一
ホ 乃 火 行 こ り さ よ ハ 二 句 ま 之 孤 火 皆 火 よ 焼 こ 以 ぐ 之 り ホ ま こ ハ
を 五 乃 火 と 所 ハ 七 句 ま 之 なりひこ ひ ン
多 く 少 と 行 く し 行 火 よ 二 百 以 り 番 所 乃 燵 火 松 百 乃
字 五 百 も 月 に 盈 行 て 之 う 月 に 月 星 お そ し 日 と
月 三 句 月 に い く ら う ま と 月 に 日 と 食 い ま 言 日 次 乃 日 ホ
い く ら 多 行 よ ふ 月 次 乃 日 こ い 次 ま 句 多 月 秋 日 ま 日 ホ
乃 行 れ 松 二 句 ま 之 月 を そ う む よ ま 月 行 ま 句 月 日 ま 月 日 ま 月 日 ま 日 ま
月 日 を そ う む よ ま 月 行 ま 句 月 日 ま 月 日 ま 月 日 ま 日 ま 日 ま 日 ま
緑 日 吉 日 面 日 佛 乃 日 ま く 北 松 と や 朝 日 名 出 日
入 日 月 れ

かくて日乃暮日新民ぞれ日乃ひろうち今日既日もて日のくらゐる日只今日よりやや先日他日次の日ふりわくすべく
実なヒ日傭日次乃日と人傭之其ヒリ来ヒリ本日光ル音の三なり光乃深ク二なり心ク
斗ら是と斗乃月とう日と斗ル高ら光乃字月日星ヨ一ル高ル
高ル深ル色ふりても同ら光乃字一文深ル
ひうと井七日ヨリと久堅久の字ル匂ル二ヒ天そくは二なり久の字
ハわう二秋一秋と是日落ルいと非然ふの日乃ひうふ
ふる秋ク久ヘて又ふよりかと乃住時ル
附かさ一ヒそうとそまま上級三秋ふ高ふ高ル乃ふ下
そ他ふと日ヒ二なり級の字七日住住乃級と云ル乃字日
おる服ひゆう仁名氷魚をひふと非然そふの下
住ふの級ハ住おふ

君とひと人二なり去ヒ雨秋乃日よ意の秋日分て又ま
ひとり岡人ヨ二なり去ヒ姐人偏住田とかくさ一業らるよ相撲秋新村
一家ル女姐一夜姐尺表三夜姐人一村一来乃ル亀行の一村一
直隠ひこそう家よ一ひいおるり乃ひ但二有ル
鄙二人秋のひ今真ひふかも不住ひやくかこひやくかこひ四ひ
こぐ人ヒヒひぐやヒ廣秋新田祭四月ヒヨシ四日去ふ四月
申日ヒヨ一夜酒サケ夜ル姐おふ高ヒカシ夜ル二なり去ヒ投岸カシ
ふり

肘 冷酒 秋之冷 膝 髀 一生ル処ノ一名 膚 廣 面 皮膚ノ別名 三月ノ節 食ハ雛 草木ノ一 鹿之廣面 昇 二月ノ節 人 人倫ノ人 貪 貪ル心 人倫ノ貪ヲ云 皮 皮膚 秘藏 秘シテ藏ス 終日 終日ノ間ハ 竹 竹ハ二月ノ生 昼 昼夜一日 中 中央ノ処 表奥 表ト奥ト 第一 第一ノ人 額 額ノ一名 髭 髭ハ男ノ顔ニ生ル 二月ノ生 死時 一人倫ノ死ル時ヲ云 病人 病ノ人 茅葺 茅ハ屋ヲ葺ク 付 付ケテ不苦 苦ノ一字ヲ付ケテ不苦ト云 付 付ケテ 百姓 人倫ノ百姓ヲ云 公事 公ノ事ヲ云 付 付ケテ

肉 檀 一茎ノ時ハ植物ヲ檀ト云 格 一生ヲ云 蛭 蛭ハ小虫 一 一ノ字 ひだる 一ノ字ヲ付ル 扉風 一ノ字ヲ付ル 昇 二月ノ生 義 一ノ字ヲ付ル 漆 漆ハ塗ル 可 可ノ字ヲ付ル 直 直ノ字ヲ付ル 人肉 人肉ハ食ス 尾 尾ノ一字ヲ付ル 猟 猟ノ一字ヲ付ル 頬 頬ノ一字ヲ付ル ひだる ひだるノ一字ヲ付ル 単衣 単衣ハ一ノ字ヲ付ル 丙丁 丙ハ日ノ生ル方 丁ハ日ノ生ル方 ひぐく 一ノ字ヲ付ル 倫 倫ハ人倫ノ一字ヲ付ル うつ行 行ハ一ノ字ヲ付ル ひね 一ノ字ヲ付ル ひやく 一ノ字ヲ付ル 業 業ハ一ノ字ヲ付ル 琴 琴ハ一ノ字ヲ付ル 牽牛 牽牛ハ二月ノ生

も

物と七百もの三千九百下の句
おくて義氏朝臣
久て義氏朝臣
橋四の句
赤うつろふを分て
紫木代おかしき七百もの三百もの
うつろふ梢もうつろふ梢の風の
春風のそや秋ふるは二百もの二千九百もの
秋紅葉敷て地蔵の句
紅葉乃橋
水急ゆ
拍子
拍乃子
分てへ不苦句
鹿三秋もの

ゐと三百もの
一百貴一百九千九百もの
夜半夢中ゆくへ十内義氏朝臣
夜半門乃名所
一夜濃かの
旦深朝ゆく
藻乃花
森三乃句
藻の字
拍乃子
武士句
拍乃子
拍乃子
拍乃子
拍乃子
拍乃子
拍乃子

望月駒之秋 百千鳥春之 百敷 雑 藻ニ住
虫 雑之水辺之春也 求 三冬 紅葉 蚊母樹
もそろ 入て以下 もろく 二季 一月也
とひ 詞ニ 持二 戻 一戻 もどき 一数面
同代 非人 指三 もとかや 二月 もつく
もちもせ 嫁之 元来ニ もろく 一諸白
勿体 ニ 二句去 望月 一名月十五夜 主水

もと付て 桃 一花ハ春 桃二 火ニ二句
しかし 一桃弁 物付て 一かし手
もちつき 一 もちや 一 擬 もそろ
持扱ニ もとろ 一 問答 一
帽子 天蓋 もてなし 一
二句去 飛脚 木綿 一衣類 沐浴 かく
毛氈 一 もぬけ 一 もぐさ
もぬけ 一 せみのから 一 もくさ

てらゐるハ股をとれく之胼跡又おおり漏乃字四も
𥮏桂ね又
ろき二

せ

瀬（セ）二云ハせ　臍（セ）二云ハせ
臍二蛹ね紀の学
節會（セチヱ）雜之おせちハ三之作乃節会と申おもいかたれくよまをおく
蕨（セリ）二蝉（セミ）二蛹
節分（セツブン）之おゐ也
関（セキ）一石乃所三乃番云
婦さとう毛い女
一云うん東一坂上西哭白殿付て之ゟ
ゟ夕すも哭東ゟり八云自行りおり
哭ハ据之
哭屋（セキヤ）哭の戸
呑所
ま二　せく　二気をせく咽をせくわせきれをせくかくかゐも
ゐ云
了ゑ四ゆ哭ゟ西とちらんと歎く八二白まて
せん　せをるせ二れ　せゆるせむる　瀍せまる
皆二白りう
せむるせむるまそ二ゐ言云
浣（セ）濯（ダク）一おせ
一別か

ね（セツ）すくハ　折（セツ）檻（カン）一妻訓吴乃人まうるセツ　綫（セン）
三白り
一せんゐる目　二るとまる
象（セツ）ろ付て　咎
おわ（セン）ホ一　膳（ゼン）一わ　咎一せの　ねくの臺定せさ膳膳わと　膳
お（セツ）
わ膳とせんの物くにまゟハ　ゑ之膳おもく　二る去
隠（セツ）云て　西職面とも不まゟまゐ隠　せんど　ね　みりる乃西
一う乙付て之在せ乃と云ハ之ゐ之　二ゐ之
ゐ又菜西　せんさく　一吾悪くらつ　好之義
を据も　ねとたせ云る　仙人（セン）　若やまへ之云く八二ゐまと
據（セツ）待（タイ）一据へ又義之
手（セン）持字ちく　い　仙人（セン）　帳人倫ね本はつそゆ
亻まハ付の差
　　　一妻　雪（セツ）
又　胥（セ）ね人倫之　ゆまゐハ面きゞも　戸（ド）
とと云る八西き　せこ　きまかれまゐ　一語
殺（セツ）生（シヤウ）一ねとそろゐとおとゆハあるセイ　船（セン）頭人倫之　旅人　一又義之
とをるとう死二ゐ行り　おり　誓紙（セイシ）　又人倫之
むまゐと　死二白りゐり　諦ゆる　一戸　四せし

せめて二ふいよ一焼失(セウシツ)大　せきぐ　一ちうつてうんかう西と居水背本震はほよハ
二る先蔵ささとま人成敗(セイバイ)おしとやふる事付る役人を
もとよ聖代(セイタイ)一ひぢり一代と後をうけて高み
二白云仙洞(セントウ)五て院の洞み聖人のとどきくぬ有り梅檀(センダン)一おかちの花ハ
折り一より代洞おほめ節季(セキ)人似く名つつし
瀬戸(セト)一取戸の始あり候ハ名をきて手
宣下(センゲ)一院宣(セン)射抄一せてうら　せんぐるもの一せん
ことこ一ゆるし政道(セイタウ)おちまつり一撰(セン)一選(セン)
誓言(セイゴン)一ちかひ一誓一禅(ゼン)一天子を受け禅ハ二ある
願成寺一善(ゼン)二えらりてもここはよしそれ　其のをしへ
まさ二白云せむる　せめてとい
ひうへて二殺

蟋蟀(シツシツ)大物怪人後一憮(ブ)
玄廻禄(クワイロク)一焼亡
くわい死ゟ言り
割札(サツ)一ふるて禁
割付不二ゆ　せわくも尺
麁(ソ)　焼亡(セウモウ)一次よ二白

す

すずしくことにふれ物ある多く納　給虫(スゞムシ)二秋也　涼(スゞ)し三一 夏の秋涼秋三　一秋上三
夏まてぬ人さとさうたハ両
をねてくされ暑ハ付そしふ
の名ひと四(ヨ)れ　薄(スゝキ)二尾花一まくろれ薄も物やくる
ともよ今一秋上四　薄花と云
肉(シシ)とも八雛之　栖(スミカ)二住よ二ある所よ三る隠家山家ととる
所よ二ある住所の　栖と住居と処へ
字所此字ニ三白云　住居(スマヰ)二
すずしくハ　ずぞぞもと二白よくて　捨(スツル)二白まで字ニ三　所は二白云
摩此字ニ三白云　すずめの者し　捨(スツ)　捨人捨ニ白云
とせと捨るいれをとめてさぬと捨家と
捨て家と出家の捨ハれるときうぬるを
須(ス)

広 水色之次十乃次 硯 一双屏风所の双海一双のみ杉原奉書之
又世帋名所の双ゆ 杉原奉書 一双水色 紙麻 帋山紙紙麻雲母
之帋紙麻のまゆ雨を経 麻也云るを安寿の為に紙麻
之為而ハ 次広 ゆかた帋 ゆかた紙 ゆかた雑 炭焼 炭
一山炭焼山炭電よ一ぢんと称之一双のとき員ごと 炭
二百ちかりぢんとう称よ扱て八分てうる 扇子 扇
扱一把して 扇子 扇 ゆかた扇 ゆかた雑 冷し 二冷二冷泉
院云也 扇 扇一把尾ゆかれいとそれるまでの間ことを名尾
中二乃内之それてめて名尾よ五乃内 扇 と内二枚乃定
名外之扇 菅 一帯共定一茎或一茎ゆかれ 菅 菅笠菅蓑
菅笠菅蓑之扇よかりしも 末乃松山 名所

之ゆかれ之扇よかりしも 水色とく 名もとくそ野よ 末乃
松山之帋名所よ依て禁よ云也 禁よ云也下ゆとも下ゆなれ云ハ
ゆかれ之帋名所よ依て禁よ云也 禁よ云也下ゆとも下ゆなれ云ハ
云乃所よ云ハ 任吉神 水色之名所之 雲 二ほの色を見ゆとを
いうごとるもの 雲 二ほの色を見ゆとを 翠 鶸之色をいふ
翠色ど見 一翠 鶸之 さとうん 何をさとうんと云ことを
うんハ云をさとぐ 新 ゆかれ 益乃宮之きとうんと 未ぢむ苑
云をよめをゆかれ 諏訪祭 雑 酢 一作る酢 酢 のゆよ 赤咄
名乃ゆかれ之帋名所よ 赤咄 ゆかれ之帋名所よ 陶乃宮 四をうつてうつ
ゆかれ之帋名所よ 陶乃宮 四をうつてうつ 大陽よ七名 姿 三雲

◯ 仮名遣大概

一 中乃えと書事 中とゆふよみへハ中のえをかく也

越 こえ こゆる　消 きえ きゆる　聞 きこえ きこゆる　絶 たえ たゆる　冴 さえ さゆる

栄 さかえ さかゆる　燃 もえ もゆる　肥 こえ こゆる　煮 にえ にゆる　○此外中のえ 多く

一 をを書ハよの字かゝるハ其字の下とそれでかへるハ皆をを書と心得へし

あを 塩　いをり 庵　かを 顔　いをを 数　うるをふ 潤

一 端乃をと書事 小の字をそへる端のをを也

をぶね 小舟　をどまる 小留　をがは 小川　をぐら山 小倉山　をり爰 小寄

を島 小島　をぐし 小櫛　をの 小野　をこれ袖 小右袖　をぐるま 小車

一物乃語のやうにづまも清のを底へ
玉乃を　琴乃を　袋乃を　音のへを
一と云ぞづまも清乃をと
をーのるこ　をーをる　をーとする　これーもまた
一物乃をうづまも清のをと
とこづま　清のとと　風もとと　そこ川　をとり川
とりも皆をと　いづまも奥もれて有べうす
一とのま　とのづう　とのづうり　これーまでもおくのかも
一とうとうへーと女房花とをり清のをと

一とんうとう清のをれとことと奥もれて
一奥乃れて書申　大の宮いづまもれくのおゆへー
れてそう大をおうと　大男　れてうと　尾　れてうと　家
れてそう山大宮　おほうと大宮　おほ井川　大井川　山沢いづまもれくの
一尾のやうにづまも奥もれてうへー　おうへー
をのへ　座　山とうれのもとうか
一所乃やうにづまも奥乃れてうへー
おうまーめー　おうめーとと　これ花と
一清のへと書申　ふのへとまかうまをんにづまも清のへ底へー

おりふし　ねがふ　乳　むすふ　酬　いふ　言
法ぐふ　義　はこふ　迷　たぐふ　乳　あふふ　洗
そふ　拂　なぐふ　逸　なふふ　涙　ちふふ　誓
ちふふ　遠　たとふ　侶　ともふ　伴　おもふ　荷
いそふ　祝　とのふ　唱　うふ　添　さそふ　倣
あふ　相　うのふ　叶　うるふ　扣　うやまふ　敬
をふふ　救　ひろふ　拾　ひろふ　詳　むふふ　向
きもふ　嵩　えふ　辨　ひぢふ　味　法ふ　佛
そふ　這　もぐふ　隨　ふりふ　占

まふ　葉　津ろふ　諾　きふ　嫌　やふ　雲
たゝみ江の平乃ひを除ものゝり

りときもふ、糸　こふ　答　ますみる　支
うるのふ　俄　まみる　鳩　わふ　与　そのふ　調
さふ　業　う姫　植　を姫　裏　ふふ　加
世おもてをうべしひふへりよかのふ五七五ねふ端のへきり
けれしまにても申されやうや奥ゆきやかにおまできこ
みふひへこかふひどもろそへ鳥　そへかふて孤軍かとい
端のへおりともるべし

一奥ちゑとゝ下に書事

ちゑ　芭　す衣　未　ゆゑ　勢　いゑ　家

うゑゐん太夫　さゑん　九条　うゑゐ左衛門　さゑゐ左衛門

右くの名かくまゐまゐりものゝきりや

一端乃いをとゝ下に書事　此ゑ端のいを下にかゝ

かいのねさめ　ひとゝ　らゐたゝ　たいおゝ　おいく　さいく

一本ちおを書事　ゐまさいかのゑ兵只一おゝよむ八升ゐゐ一なゝ

ゑゝ升　石ゐまゝ我をゐるゝゝ何てゐれゐを也

うゐ　たゐう　うゐかうふり　ちゐゐゝだ

ゐゐよ　ゐゐて　ゐちゐて　ゝゐゐ

ゐゐ　きゐる　いる升　ゐゐまゝう。此ゑゐゝ一

一うゐち字とゝ下に書事　ゐれひゝをゐまゝゝゐゐゐゐれゐゝ

そう　俟　ゐゝ一清　せうかう　莚香　ねうだう　女房

ゝゝたう　回遠　せうく　ゆく　ぶつたう堂塔　ゝゝたう　奥隆

まうけ　俵　ゐゝし　拶拶

右ゐのようむ字ゐれとうと読む左男うれ字ゐ一訓読

附ハうと女字ゐれ字ゐとうと読むゝゝ一ゐゐて我字ゐ

うれ一ゐのゝゝゝゝゝ

一むつ字とうれゐゝむ事　口とうゐて読ゐうれゐゝゐ

むれ　　むまれ　　むまれ　　むまれ　　むまれ
むめ　　むま　　うまんちむまれ
うまのうえの文字はみなうまむ
形(ギョウ)　芝(シバ)　蘭(ラン)　雑(ザツ)
一ぐんだうはつうまんとうむ　一把(ワ)
右はおかれうまのうえの俗名(ゾクメイ)にて字(ジ)ありてもなし
はうまれ本(ホン)の奥(オク)ひやうごおりのかーらのうえ
事(コト)もありうまのうえへ唱(トナ)へ遊(アソ)ばす筆(フデ)一隅
已(ヲヘ)上準(ジュン)うまうべし

漢和式

一　琴唱句之事

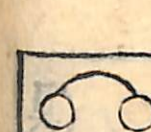
琴唱(キンショウ)句(ク)とは発句(ホック)の事(コト)にて出来(シュツライ)の句(ク)の事(コト)を除(ノゾ)きて脇(ワキ)の句(ク)韻字(インジ)を云(イ)ふなり

必(カナラ)　有(アル)　鄰(トナリ)　花(ハナ)　見(ミル)

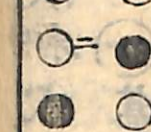
此(コノ)句(ク)の鄰(トナリ)の字(ジ)は詩経(シキョウ)の語(ゴ)にて乃(ノ)の字(ジ)なりたゞ
字(ジ)は麻乃詩(アサノシ)の字(ジ)なり此(コノ)二句(ニク)の字(ジ)を除(ノゾ)きて
何(イヅ)れも韻(イン)にて脇(ワキ)の句(ク)韻字(インジ)を云(イ)ふなり但(タダ)し
句(ク)うへの韻字(インジ)とうまるまでとも俳諧(ハイカイ)おゐて

あるて甚かまひなし

㊂二四不同之事



毎句二と四とを不同まをなし
又式二字なめ仄字もれも四字なるも
是へ平字四てもて仄字ありても兩韵ともに
よろしかるへし



此式も成へきをなし
又式二字なめと四字なめと同じ様
なるを嫌ふなり

㊂四字一平之事

上句も四字不同なれとも四字仄字にて
平字ハ一字なるへきなり
下句○○●○●○●
但し多逸句なれ共古格古句のとをく用ひ揃せ
あるなるわさ百韵より一所ハ免すなり

㊃避下三連事

上句○○●●●
下句●●○○○
又平仄起之事

二字なめをおとをり

上乃句 ◐ ○ 平起 ○ ● ● 是平起之時對句ハ仄
ツイ ◑ ● 仄起 ● ○ ○ 撃起まぢえ式之上乃句
上乃句 ○ ● 仄起 ◑ ○ ● 付句ハ同く仄起まぢえ
ツイ ● ○ 平起 ◑ ● ○ 之時對句ハ平起ますべし
是角上乃句と下乃句ハ勢ひ同く起を遠へてはし下ノ
句と上乃句勢ひ同く起みまぢえ

㊅漢和一座法式之事

面八句乃内漢四句和四句也面の内對一所
ゐるべし多くハ乃至ハ對ありてもよし不苦

漢和乃附ハ面の八句め和ひり和漢乃附ハ八句め
漢ひり挙句もかゝれおり
面八句乃内朱門乃句可禁朱門乃ひ奥ニ載之但し
第唱句ハ各別乃ひえ
百句乃内漢五十句和五十句くひりかゞら漢ひて
も和ひても二三句ハ多ハまゐりかゝらず
花雪乃内漢二句和の方ニ二句
月和漢ともに三句五句ほど多くてもよろしく
雪五ッ漢ひても和ひても五ッおゐゝもよろしわ

二句あるいは両方へ一句ばくるも甚だ美なり
て出るは和漢出がちよ一句ありべし
五句玄三句玄乃物にはまるも韻字に拘まべしという
法なし元物は法のみだりすべえ鬼瘢の
韻乃第三ノ
通籠番二月一夜ノ
番乃字え鬼瘢ありては韻バン訓へうるかさ
あるとまたりいさむとよび附い歌乃韻みて
音は也意鬼瘢痕ノ韻よりばかなひて不害

韻外字は三乃まよりうたうもうるかぎり
漢句和句共り五句まで次べし但漢乃句對よ
至ていた句ばかりてもうるかぎり和乃句は五句を
限りをなし
要聯乃漢あるぎ付句も漢ふもべし七言ハ文句
あるぎ七言ハ對よもべし其以下は五言みても
うるかぎり次ハ対を拵合ふ常ハ俳諧同ふも
疊字へ躍なあり一座よ八句まで二つかずなよ
同一面を嫌よ也上中下と重所をもかもべし

假名書ハ一准一ところろ
漢和乃ごとく發揚(ホッヤウ)りいでゝ草唱句ヤ内の平字
乃韻を除きて外乃韻おて脇乃句ヤ韻字ハ
ろゝ
和漢ともに乃句ヨ韻字とぬゝず是も和ヤ各其
内乃平字を除きて脇乃句ヤ韻字を字底(ジテイ)べむ漢
乃方ハ韻字ハ絶とゆる也
靜韻ハ韻字(ヰンジ)能(ヨク)
落(ラク)の字也 常ヤ俳諧ヨ下乃句毎ヨ韻字をゝて
ゆゝくむ是を發句乃内ヤ平字と涂きて脇乃韻を

うゝろゝ沙ハ別義ゝ
(七)對句之次第
凡(オヨソ)十二門乃内乾坤(ケンコン)を時候(シコウ)と對(タイ)し氣(キ)形(ケイ)と食服(シヨクフク)乃
とを對ヨ用ひ態藝(タイゲイ)と盤(バン)神(ジン)も一ツヨ用ゆ
但態藝乃中ヨ輕(カロ)くして盤神ハいやるゝなり
又盤神乃中ヨ強くして態藝ハいやるゝなり
ろわヨ又合て對をべ
人倫(ジンリン)ハいろ形(ケイ)乃中ヨ有とのべどを別ヨ擇(エラ)ひ出
用ゆべし 虫魚鳥獸等乃生類と人倫とを均ゝ

對うをくらべ
合掌對とて悪きなり是は兩乃くちと合ものゝ
付ところを嫌うたとへば天に地有冬寒に暖長に
短大に小善に悪め此乃たぐひなり
或人曰合掌對いかゝ物ぞ答作魚をもつ
む答て曰たとへば一裏菓唱句は
葉鱣一朱一茄一汁
是うり合掌對一て
增一鯖一菁一蓼一饅

唱句此論語陽貨乃篇より惡紫之奪朱
紫也ようよ結よをかりて作まり俗は朱
鱣とらひて切口乃赤きより茄乃をもつて
紫をよせうあ對乃句い鯖をまぜいう
蓼うて饅めよせうふまさをまぜ
一ものもちはうをうて魚は魚を字
さるよ食類と食類立乃指を合ふる
うびとく對おうふとみ此唱句は合掌對は
おうざる對あうぞ

裏ニ筆一光ラ草　籠

当魚ヲ出朱ヲ入レ汁ヲ食物籠ハ当然也
加様ヲ宵宮ノ句ニ句作ヲ為ルヲ
同ジ如ク作ル所ノ五字ノ内二字ヲ
ヲヽヽヽヲ一句ヲ作ルヲ会席ト
ヲヽヽヽヲ一句ヲ作ルヲ会席ト

（八）俳諧書之事

中華ノ張九成日本ノいろはヲ書史会要ニ載
セリ故ニ往古ヨリ用ヒ来レリ狩句ニモ多シ

たとへば月をつき山をやま雨といろをかくまきもの
書ヲ用ヒかくのごとし俳諧ノ用ひざるや一無
ヲ点ヲ打ヲ俳諧ノ文字ヲおくに記ヲ

辻堂　白壁　松
ミる　と　成助
テン　て　宗因

辻堂乃白壁松ヲ表れあるハ巡礼ノ為事ヲ
さる句作ヲあるハ所ノ俳諧ヲ以て狩ヲこと
俳諧の一體あり

連綿字之事

連綿字ハ冠ヲ着ル仮リ下ヲ共ニきをつり教ゞだ

乾坤ゝそへ　　虐廉　　堪壈　　圄圄　　勝朧

宇宙　　気形ゝそへ　　多イホ　　ヒトヤ　　ヲホロ

麒麟　　風凰　　蛤蜊　　鴛鴦　　猿猴

ハマグリ　　ヲシドリ　　サル

丈躰ゝそへ　　髭髪　　髑髏　　目瞼

肺腑　　態藝ゝそへ　　サヒカウベ　　キモ　　マナコ

顱顬　　婀娜　　躁躙　　慇懃　　俳徊

生植ゝそへ

桔梗　　桐　　芰蕗　　枇杷　　菖蒲　　蒲菊

キリ　　アヤメ　　エヒカツラ

食服ゝそへ

牝牡　　牖牕　　裘裳　　醴酪　　鑑饌

ハチキリ　　ヒトヨサケ　　コクリイヒ

忽財ゝそへ

琴瑟　　艇艦　　幣帛　　柄杓　　藁藳

ヒサコ　　イクサフネ　　ニキテ　　タカムラ　　タンシロ

右連綿字ハ連綿字ニして對ゝべし　この類

まだ大概ゝを上ふものゝ

是ハ別るゝ物と二つよせて連續(レンゾク)するをいふ(ヨミ)

乾坤(ケンコン)そへ　星霜(セイサウ)　雨露(ウロ)　山林(サンリン)　陰陽(インヤウ)　春秋

気形(キケイ)そへ　亀鶴(キクワク)　犬鶏(ケンケイ)　龍虎(リョウコ)　狐狸(コリ)　燕鴬(エンアウ)

文辞(ブンジ)そへ　客顔(キャクガン)　頭頂(トウテウ)　眉目(ビモク)　心肝(シンカン)　手足(シュソク)

態藝(ワザ)そへ

生還(セイクワン)　生植(セイショク)　松菊(ショウキク)　菖蒲(ショウブ)　栗(クリ)　桃李(トウリ)　林竹(リンチク)

食服(ショクフク)そへ　酒茶(シュチャ)　酒(サケ)　酒肉(シュニク)　錦繍(キンシウ)　肴核(サカナ)

器械(キカイ)そへ　金銀(キンギン)　甲冑(カッチウ)　弓矢(キウシ)　刀杖(トウジャウ)　筆硯(ヒツケン)

その外何程も多くこゝに出す大畧を挙(アゲ)るのみ

十三 物之事

貪嗔癡　儒釈道　過現来　身口意
天地人　智仁勇　あらゆるあまつへ
(十)底逆のの
底なりをいふなり下を表せいふべし下
ふいふなりそえん
賢古　勤学　蒲池　納涼　無心　看経
あらゆる類へかくのごとく句ふいふく底逆なり
まりて対えへ一対句訓ずて付るのいふべし
又唱句逆りてよみ名底逆ずて対をなす

有文字の類ひまことへ一つのを二と数のこと
(十一)朱引之事
朱引をなす人乃名名所の名書物乃名与号を位
これら也人乃名りの人れ名国のなかいふのなれ
くよ対えへ一平仄さへありてかのて字対よ拗
りうへうすむ字対りくい程なすあり人れ名詩へ
山谷ふいふに東坡これ二字なよ乾坤門のなあり
黒生とあるよ赤人これ黒とふいふ赤八字形門乃字なれて注十八上ふれ対なり

子酪う麒麟ハ酪と倒とハ乾坤門のまにて對と
もともみに気形門顔色の旅門やて八二字對を次絵
どを朱一なる故對をおく時改は頼朝なとの類も
是うてあるへし但唐人乃名と日本人の名と對を
へく次第ハ谷は道風日字は乾坤門うて字ハ旅
對をわるも山谷ハ唐人道風ハ日本人なとおくと乃
頼朝なく對うをへくすべき所乃名うハ上野は近江松浦と篠原とわる字
對うて上巻之文勝るる高雄三室とハ階なくハ

字ハ對せされとも朱門故對よろしかるへし

朱門狂哥

右所中ハ人ハ名たとえ寛乃朱門とかゆくもるへし
二門ハ中乃朱門ハ物の年た二ツハ年号そし

(画)文字男ハ様乃事

醫ハ酉ハ香乃字なかうそとよむるれと生薬と
ハ對異なれよ男か時ハ家線なるも芳ハなか
うそとよむ時ハ虚神よてそうと書り
男をそ花乃ありて生薬うハへし柏かく

とうもろこし　唐押麦　なども是音より用ひ生ー
植となる　蕎麦　蕪乃字も類も同じ　圃音よ
用きたうもろこしの乃ごとくして乾坤ふたなる用　寂
幽乃字もおなじ　詩乃字詩を作るこれを用
字なり詩文詩書乃ごとく用ひては其外もある
文書章乃字も同じく桐竹字きりとよみてる
生ー植なりおこしよみては其賊あり　梧の字を
同じ琴ーなる之類此類乃字たゞ我と
乾坤と気形と通用乃字

日月星虹霓雷
乾坤と忽賊通用乃字
軒扉門戸椋　瓦甍杼碑牀石
灰炭楯棚
乾坤と支躰と通用の字
趾牙気夢角
乾坤と光彩通用の字
日月星電露煙煤
乾坤と態藝と通用乃字

夢中封居處虛空渡泥堆載
代遠近上下內外前後表裏
乾坤と生植と通用
林菀森節
気形と態藝と通用
雄漁樵牧
気形と支幹と通用
羽翼鱗翰(ハネ)角毛
気形と光彩と通用

日月星烏(黒き心兎皐心蟾蜍月上)蟲
気形と照財と通用
貝蠙鵜
気形と人倫と通用
雄漁鰥獨孤
人倫と態藝と通用
賢愚樵漁盜賊佐將衆老若
自他雄勇侶
支幹と態藝と通用

輩 劇 情 智 嗜 病 盲 瘖

生植と気財と通用

架 茶 茗 香 剽 藥 栄 薪

生植と光彩と通用

紅 翠 緑 棠

気財と態藝と通用

権 緑 朽 飾 詩 文 章 歌 同

気材と光彩とかゝる字

丹 朱 金 銀 墨 玉 碧 粉 錦 繪 畫

白 薄 泥

光彩と態藝兼ゐる字

清 淡 濃 濁 渋 然 薄 泥

数量と態藝と通用

重 皆 分 長 短 多 少 細 同 諸 数

幾 雙

右ニ挙ケ乃文字数多ハ一是等ノ句ニ添ヘ用ユル時ニ

(十五)個名書乃文字外ニ

月ヲ都嘗又称計 雲ヲ称群 風ヲ加前 雨ヲ下来

霜を辞備 ほとゝぎす夜を攪落 霧を吉利 ひぐらし夜漫
水を朋東 珠を儛貫 筆を分直 墨を蘇弥 箱をかな
硯を松鼈刹 頭を蜜羅 手を提 酒をぶ嬬 杉を松計
松を埋止 酒盃を肭加勝計 強盗を去宿鼻隨
此類乃かなかき不可勝計あり

㊂ 漢之句四季之字事

○春

朦朧 ほのぐらきこと 素絲 日上 數氣 ながきこと
蹴青 ふみあをむること 芳草 よきくさ 晴景 日上
杏村酒 酒をかふりの心をもつて花を插 花信風 花の開むとする時吹 鶯梭 柳の
杏雨 ほとゝぎす 禽啼碑 るの字ほと亀の布をかけるさまにかくこと 春脹 日うら
けてあれ狂ふをいふ 花腮足 脚氣のあるくねむるをいふ 護山鳥 山花を
花有約 花をおくるゝ處 前言 素乃あらまほしきことを 桃酔 うるをいふ
梨雲 梨の花咲きて雲のごとくなるをいふ 梨雪 梨の花咲きて雪のごとくなるをいふ
緑情 紅意 花のこゝろ 梅小女 むめをうつくしみよめるこゝろ
恋花の淡彩緑の情 梅小女 むめをうつくしみよめるこゝろ

梅花暦　卯月の異名也　梅の花を暦として春を暦と知る也

春一番　其の年の早く吹く風

春霞　春の空ほとんどかすみわたるを

霞　日上ん

○夏

清和　四月の異名也

初夏　四月の末五月の末までをいふ

緑陰　夏の木の葉茂りて緑陰をなすを

十三紅　かん八月二月三月花の異名也

五月雨　五月の異名也

迎梅雨　四月の末

新緑　木の葉の緑を

花富貴　牡丹をいふ

山如滴　山の緑を

梅天　四五月をいふ

緑勝花　緑の花に勝るを

梅熟潤　梅の熟して赤くそこづきて類のくるるをいふ

紫繍　昔昔を此二字にて賜る

暑　炎熱　三伏の時節をいふ

驕暑　馬をかるくあつさをいふ

荷雨　夏の雨

老緑　夏中此のごとし

南薫　南より来る風

炎塵　夏のあつき気を塵とみる

涼書　夏の天気よき物の本を虫ばみをせぬ為に出して風を入るを

火炎埃張　あつきほのおのごとくなるを

暑埃塵　同上

暑如酔　きもあつさにあてられたるごとくなるを

炎雲奇峰　あつき雲のさまざまなるを

風解慍　あつき時風吹いてすずしくなるを

秋近期　秋の来るを待つ

○秋

初涼新涼　秋の季

金気　秋の異名也

秋風　秋の初の風

秋雨　秋の雨

秋晴　秋の空の晴たる

秋高　秋の空の高きを

秋霖　秋の雨の久しきを

秋夕　秋の夕べ

秋夜　秋の夜

秋暁　秋の暁

秋天　秋の空

秋日和　秋の日和

秋麗　秋の空のうらうらとかすみたるを

秋晴　秋の空の晴たるを

秋冷　秋の冷かなるを

秋寒　秋の寒きを

秋暖　秋のあたたかなるを

秋涼　秋のすずしきを

秋燥　秋のかわくを

秋湿　秋のしめるを

秋霧　秋の霧

秋霜　秋の霜

秋露　秋の露

秋雪　秋の雪

秋雷　秋の雷

秋虹　秋の虹

秋風　秋の風

秋月　秋の月

秋星　秋の星

秋雲　秋の雲

秋山　秋の山

秋水　秋の水

秋川　秋の川

秋野　秋の野

秋原　秋の原

秋田　秋の田

秋草　秋の草

秋木　秋の木

秋林　秋の林

秋竹　秋の竹

秋菊　秋の菊

秋蘭　秋の蘭

秋萩　秋の萩

秋芒　秋の芒

秋蓼　秋の蓼

秋蓬　秋の蓬

秋蔦　秋の蔦

秋楓　秋の楓

秋紅葉　秋の紅葉

秋虫　秋の虫

秋蝉　秋の蝉

秋蛍　秋の蛍

秋蚊　秋の蚊

秋蠅　秋の蠅

秋蜂　秋の蜂

秋蝶　秋の蝶

秋蜻蛉　秋のとんぼ

秋蟻　秋の蟻

秋蜘蛛　秋の蜘蛛

秋蚯蚓　秋のみみず

秋蟋蟀　秋のこおろぎ

秋鈴虫　秋の鈴虫

秋松虫　秋の松虫

秋馬追　秋の馬追

秋蟷螂　秋のかまきり

秋蜻蛉　秋のとんぼ

秋蜩　秋のひぐらし

秋蝉　秋の蝉

秋蛍　秋の蛍

秋蚊　秋の蚊

秋蠅　秋の蠅

秋蜂　秋の蜂

秋蝶　秋の蝶

秋蜻蛉　秋のとんぼ

秋蟻　秋の蟻

秋蜘蛛　秋の蜘蛛

秋蚯蚓　秋のみみず

秋蟋蟀　秋のこおろぎ

秋鈴虫　秋の鈴虫

秋松虫　秋の松虫

秋馬追　秋の馬追

秋蟷螂　秋のかまきり

秋蜻蛉　秋のとんぼ

秋蜩　秋のひぐらし

金雨 秋のあめ
葉語 秋風のうごくを人の語るがごとし
桐涼 桐相乃すゞしきはのごとし
素景 秋の景色をいふ 秋の白き景色をいふ
疎桐 秋風ふきすさみて桐の葉のまばらなるをいふ
楓錦 もみぢのうるわしきをいふ
紅樹 同上
黄落雨 木の葉の落る音のあめにまがふをいふ
寒砧 うそさむきころ衣をうつをいふ
山客瘦 草木の葉落て山のかくれなくなるをいふ
雁雲 雁のおほくつれわたるをいふ
冷秋 秋のすゑのころをいふ

○冬

朴落葉 朴の葉のちるなり
凍蟄 さむきゆゑにとぢこもるをいふ
凍鶴 こほりたるをいふ
燒葉 落葉をたきやくをいふ
呵筆 筆のこほりてかきがたきをあたゝめてかくをいふ
凍雲 雪天の雲をいふ
弓月 弓乃ごとくかまりたるをいふ
覆瞼 まぶたのおもくかぶさるをいふ
敲凍硯 こほりたるすゞりをたゝくをいふ

短景 冬の日のみじかきをいふ
獸炭 けものゝかたちなどにすみをやくをいふ
探梅 梅の花のまだひらかざるをたづねありくをいふ
鴛鴦枕 鴛鴦のつがひあるごとくまくらをならべてふすをいふ
鉤雪 雪のふりつもるをいふ
敲雪寺 雪ふかきてらをたづねとふをいふ
臘 十二月をいふ
歲暮 除のすまをいふ
春信 梅の花のさくをいふ
守歲 大晦日の夜をよもすがらねずにあかすをいふ

○雜

雲龍友 雲のたつごとくなるをいふ
詩肺淨 詩人のむねのきよきをいふ
金石友 かねといしとのごとくかたくかはらざるともをいふ
遊仙枕 仙人のまくらをいふ
肺石人 肺石は大路にありて訴ある人のたつところをいふ
雲似蓋 雲のさしかざすごとくなるをいふ
竹樓 竹ばやしのうちにあるをいふ

灌口行亭ところの人筆まことにありがたきものなり
清書をつくるまねとかや名よめてくれうかしこくかくるゝ達乃於さへあれば数量手ふ
於ゐ乃をおくいさゝか口惜けれどまづ今ハ
俳風ハ自ゆゑまことにかなしもつゝもたうとくに私ごとき人をもあはれ

元禄十年丁丑孟春穀旦

洛下書林　露吹庵和及

新井彌兵衛版

改板をくはゝるの跋

誹諧式之祖宗長頭翁之嫡門良徳之孫良保孫之正統伝傳（常矩より）

予及竹亭西師之傳をうけ亀林之名法号ゆるされ

しもはるかに年をつみ（これをさしき）

よ国を辱くせず（新料）

西京段到（新料）

なして（新料）

誹書目録

誹諧新式大成 鷺水 二冊	誹諧をだ巻 竹亭 二冊
同 和人加持倫 千梅 三冊	同 沼尸板 二冊
同 鶯の白尾 青夷 四冊	同 拾遺 丈石 蕨白入 一冊
同 糸切歯 春耕 四冊	同 暁山集 古山 二冊
同 名大根 梅尺 麟那 一冊	同 [illegible] 風状 一冊

[illegible]

[illegible]

蘒稿 石壽庵 蟲生

安永十年辛丑正月
京寺町通五条上ル町
書林 田中庄兵衛

同名醫大成 雜良 二冊
同壽垣大成 醫水 二冊
同花火大全 立圃 一冊
同初學抄 德元 一冊
諺林良材 醫水 三冊

同蕃画童 和又 一冊
同多介屑 同作 一冊
同そうら立 好叟 二冊
同多杉明 風狀 一冊
諺諧箋 文石 南窗抄

皇都書肆 田中汲古齋